



ELOM から ILOM への移行 ユーザーズガイド

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 820-6730-10
2008 年 10 月、改訂 A

本書についてのご意見 ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright © 2008 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

本製品にはサードパーティーによって開発された素材が含まれている可能性があります。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Sun Fire、および Sun Blade X6250 サーバーモジュールは、Sun Microsystems, Inc. の米国 およびその他の国における商標または登録商標です。

Intel® は Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Intel® Xeon® は Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Intel Inside® は Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

本製品は、米国輸出管理法の対象であり、これらの法律により管理されます。また、その他の国の輸出または輸入に関する法律の対象となる可能性があります。原子力、ミサイル、生物化学兵器、または海洋核戦力の最終用途での本製品の使用、またはそれらに携わるエンドユーザーによる本製品の使用は、直接あるいは間接を問わず、固く禁じられています。米国の通商禁止国または輸出禁止リストに掲載されている団体、禁止対象の個人や特別に指定された国の国民などに対する輸出または再輸出は固く禁じられています。

CPU の予備品または交換品の使用は、米国の輸出法に準拠して輸出された製品の CPU の修理または 1 対 1 での交換に限り許可されています。米国政府の許可を得ることなく、製品のアップグレード目的で CPU を使用することは、固く禁じられています。



Adobe PostScript

目次

目次 iii

はじめに vii

本書の構成 vii

表記上の規則 viii

関連ドキュメント viii

ドキュメント、サポート、およびトレーニング ix

コメントをお寄せください ix

1. 概要と準備 1

本書について 1

ELOM から ILOM への移行に関する FAQ 2

ILOM の機能一覧 3

 ILOM のアップグレード機能 3

 ILOM の機能 3

ELOM から ILOM に移行しない場合 5

ELOM から ILOM への移行プロセスについて 5

 移行プロセス 5

移行プロセスの準備 6

 移行作業の表 7

 『ご使用にあたって』と、ELOM および ILOM のドキュメントを確認する 8

- ▼ 『ご使用にあたって』と、ELOM および ILOM のドキュメントを確認するには 8

BIOS にアクセスしてカスタマイズされた設定を記録する 9

開始前のご注意 9

- ▼ BIOS にアクセスしてカスタマイズされた設定を記録するには 10

ゲートウェイ IP アドレスを記録する 10

- ▼ Web GUI を使用してゲートウェイ IP アドレスを記録するには 11

- ▼ CLI を使用してゲートウェイ IP アドレスを記録するには 11

サーバーのファームウェアアップグレードファイルをダウンロードしてコピーする 12

- ▼ サーバーのファームウェアアップグレードファイルをダウンロードしてコピーするには 12

構成設定を保持する 15

ユーザー権限またはコールバック権限を持つユーザーアカウントを保持する 16

コマンド行インタフェース (CLI) とアップグレードスクリプトを使用して ILOM に移行する 16

2. 暫定バージョンの ELOM へのサーバーまたはサーバーモジュールのアップグレード 17

暫定バージョンの ELOM へのアップグレード 17

開始前のご注意 18

- ▼ Web GUI を使用して暫定バージョンの ELOM にアップグレードするには 19

- ▼ コマンド行インタフェース (CLI) を使用して暫定バージョンの ELOM にアップグレードするには 21

3. ILOM へのサーバーまたはサーバーモジュールの移行 25

開始前のご注意 25

- ▼ Web GUI を使用して ILOM に移行するには 26

- ▼ コマンド行インタフェース (CLI) を使用して ILOM に移行するには 29

DOS 起動 USB フラッシュドライブを使用して Sun Blade X6250 および X6450 サーバーモジュールを ILOM にアップグレードする 31

開始前のご注意 32

- ▼ DOS 起動 USB フラッシュドライブを使用して Sun Blade X6250 および X6450 サーバーモジュールを ILOM にアップグレードするには 32

4. Sun Fire X4150 および X4450 サーバーの ILOM アップグレードに失敗した場合の回復方法 35

開始前のご注意 35

破損した SP を回復する 36

- ▼ Tools and Drivers CD を使用して破損した SP を回復するには (方法 1) 36
 - ▼ DOS 起動メディアを使用して破損した SP を回復するには (方法 2) 37
- 破損した BIOS を回復する 38

- ▼ リモートフラッシュファイルパッケージを使用して破損した BIOS ファームウェアを回復するには (方法 1) 38

- ▼ Web GUI を使用して ELOM BIOS ファームウェアを回復するには 40

- ▼ CLI を使用して ELOM BIOS ファームウェアを回復するには 41

- ▼ Web GUI を使用して ILOM BIOS ファームウェアを回復するには 42

- ▼ CLI を使用して ILOM BIOS ファームウェアを回復するには 44

- ▼ Tools and Drivers CD から BIOS ファームウェアを回復するには (方法 2) 45

5. Sun Blade X6250 または X6450 サーバーモジュールの ILOM アップグレード中に発生したエラーからの回復方法 47

Sun Blade X6250 および X6450 サーバーモジュール上の破損した SP を回復する 48

開始前のご注意 48

- ▼ Sun Blade X6250 および X6450 サーバーモジュール上の破損した SP を回復するには 48

破損した BIOS を回復する 49

- ▼ SP の状態を確認するには 49

6. ILOM から ELOM へのダウングレード 53

サーバーまたはサーバーモジュールを ILOM から ELOM にダウングレードするための準備 53

『ご使用にあたって』と、ILOM および ELOM のドキュメントを確認する 54

- ▼ 『ご使用にあたって』と、ILOM および ELOM のドキュメントを確認するには 54

ILOM の構成設定を記録する 55

- ▼ ILOM の構成設定を記録するには 55

ILOM から ELOM にダウングレードする 55

Sun Fire X4150 および X4450 サーバーを ILOM から ELOM にダウングレードする 56

開始前のご注意 56

- ▼ Tools and Drivers CD を使用して ILOM から ELOM にダウングレードするには 57
- ▼ DOS 起動 USB フラッシュドライブを使用して ILOM から ELOM にダウングレードするには 58
- ▼ DOS 起動 USB フラッシュドライブと SOCFLASH.EXE を使用して ILOM から ELOM にダウングレードするには 59

Sun Blade X6250 および X6450 サーバーモジュールを ILOM から ELOM にダウングレードする 60

開始前のご注意 60

- ▼ Sun Blade X6250 および X6450 サーバーモジュールを ILOM から ELOM にダウングレードするには 61

はじめに

『ELOM から ILOM への移行ユーザーズガイド』には、Sun Fire X4150 および Sun Fire X4450 サーバー、Sun Blade X6250 および Sun Blade X6450 サーバーモジュールを Embedded Lights Out Manager (ELOM) ベースのシステムから Integrated Lights Out Manager (ILOM) ベースのシステムに移行するための情報と詳細な手順が記載されています。また、これらのサーバーを ILOM ベースのシステムから ELOM ベースのシステムに移行するための情報と手順も記載されています。本書は、技術者、システム管理者、承認サービスプロバイダ (ASP)、およびサーバーのハードウェア、ソフトウェア、ファームウェアのアップグレード経験を持つユーザーを対象としています。

本書の構成

第 1 章では、移行プロセスの概要を説明し、Sun Blade サーバーと Sun Fire サーバーの両方に必要な手順を示します。

第 2 章では、Sun Blade サーバーと Sun Fire サーバーの両方を暫定バージョンの ELOM にアップグレードする手順について説明します。

第 3 章では、Sun Blade サーバーと Sun Fire サーバーの両方を ILOM にアップグレードする手順について説明します。

第 4 章では、Sun Fire X4150 および Sun Fire X4450 サーバーの回復手順について説明します。

第 5 章では、Sun Blade X6250 および Sun Blade X6450 サーバーの回復手順について説明します。

第 6 章では、ILOM ベースのシステムを ELOM ベースのシステムにダウングレードする手順について説明します。

表記上の規則

書体	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	% su Password:
AaBbCc123	書名、新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	『 <i>User's Guide</i> (ユーザーズガイド)』の第6章を参照してください。 これらはクラスオプションと呼ばれます。これを行うには、ユーバ-ユーザーである必要があります。 ファイルを削除するには、rm <ファイル名> と入力します。

注 ブラウザの設定によっては、文字の表示が異なります。文字が正しく表示されない場合は、ブラウザで文字エンコードを Unicode UTF-8 に変更してください。

関連ドキュメント

ご使用のサーバーのドキュメントセットの説明については、サーバーに付属している『ドキュメントの場所』シートを参照するか、製品のドキュメントサイトをご覧ください。

- x64 サーバーのドキュメントは、次のサイトにあります。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/server.x64#hic>

- Blade サーバーのドキュメントは、次のサイトにあります。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.srvr#hic>

<http://docs.sun.com> にある一部のドキュメントは翻訳されています。ドロップダウンリストから言語を選択し、製品カテゴリのハイエンドサーバーおよび x64 サーバーまたは Blade サーバーのリンクを使ってご使用のサーバーのドキュメントに移動してください。簡体字中国語、繁体字中国語、フランス語、日本語、韓国語の翻訳版が入手可能です。

英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

ドキュメント、サポート、および トレーニング

分野	URL
ドキュメント	http://www.sun.com/documentation/
サポート	http://www.sun.com/support/
トレーニング	http://www.sun.com/training/

コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトからお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

『ELOM から ILOM への移行ユーザーズガイド』、部品番号 820-6730-10

概要と準備

この章では、ELOM から ILOM への移行プロセスの概要を示し、サーバーまたはサーバーモジュールのアップグレードを成功させるために実行する必要がある準備の手順について詳しく説明します。この章に記載されている情報および手順は、Sun Fire サーバーと Sun Blade サーバーモジュールの両方に関連するものです。

- [「ELOM から ILOM への移行に関する FAQ」](#) (2 ページ)
- [「ILOM の機能一覧」](#) (3 ページ)
- [「ELOM から ILOM に移行しない場合」](#) (5 ページ)
- [「ELOM から ILOM への移行プロセスについて」](#) (5 ページ)
- [「移行プロセスの準備」](#) (6 ページ)

本書について

本書には、Sun Fire X4150 サーバー、Sun Fire X4450 サーバー、Sun Blade X6250 サーバーモジュール、および Sun Blade X6450 サーバーモジュールで ELOM を ILOM に移行する手順が記載されています。各サーバーでの移行手順は似ていますが、特に Sun Fire サーバーと Sun Blade サーバーなど、サーバーの種類によって異なる部分もあります。異なる部分については注意書きが付けられ、必要に応じて手順が分けられています。

ELOM から ILOM への移行に関する FAQ

次に、ELOM から ILOM への移行に関する質問とその回答を示します。

質問: 使用しているサーバーを ILOM に移行する必要があるのはなぜですか？

回答: Sun は、お客様のニーズに最も適した単一のサーバーおよびサーバーモジュール管理ユーティリティをお届けするためにリソースを統合し、投入してきました。また、最高のサーバー管理ユーティリティとして ILOM をサポートし、開発することに力を注いでいます。

質問: Sun による ELOM のサポートは終了するということですか？

回答: ELOM のサポートは継続されます。ただし、ELOM のアップデートは提供されなくなります。また、サーバーまたはサーバーモジュールのハードウェアの今後のアップデートが、機能の ILOM 互換性に左右される場合があります。

質問: ILOM へのアップグレードに伴って、サーバーのハードウェアの変更も必要ですか？

回答: ILOM へのアップグレードは、ファームウェアのみのアップグレードです。サーバーのハードウェアを変更する必要はありません。

質問: システムの移行はいつ行えばいいですか？

回答: できるだけ早くサーバーを ILOM に移行することをお勧めします。

質問: スクリプトを使用して複数のシステムをアップグレードすることはできますか？

回答: はい。「[コマンド行インタフェース \(CLI\) とアップグレードスクリプトを使用して ILOM に移行する](#)」(16 ページ)を参照してください。

質問: 移行プロセスを開始する前に、インストールしておくべき ELOM の最低バージョンは？

回答: このプロセスを開始する前に、サーバーまたはサーバーモジュールを、入手可能な最新バージョンの ELOM にアップグレードすることをお勧めします。

質問: どのバージョンの ILOM にサーバーを移行するのでしょうか？

回答: まず、サーバーを一時 (暫定) バージョンの ELOM にアップグレードしてから、ILOM に移行する必要があります。移行プロセスを完了すると、サーバーまたはサーバーモジュールの ILOM はバージョン 2.0.3.6 となります。

質問: ILOM に移行せずに暫定バージョンの ELOM を使用することはできますか?

回答: いいえ。暫定バージョンの ELOM は、通常の使用でサポートされていません。ILOM への移行時にのみ使用してください。

質問: サーバーを ELOM から ILOM に移行する方法を教えてください。

回答: 「[移行プロセス](#)」(5 ページ)を参照してください。

質問: 現時点では ILOM に移行したくない場合、どうすればいいですか?

回答: 「[ELOM から ILOM に移行しない場合](#)」(5 ページ)を参照してください。

ILOM の機能一覧

ILOM のアップグレード機能

ILOM には、ELOM にはない次のような機能があります。

-
- 他の x64 サーバーおよび SPARC サーバーとの一貫性の向上
 - SUN-HW-TRAP_MIB による SNMP トラップのサポート
 - LDAP および RADIUS を使用したユーザー認証
 - CMM から SP へのシングルサインオン (Blade サーバーのみ)
 - CMM から SP へのドリルダウンの向上 (Blade サーバーのみ)
 - 構成変更の監査
-

ILOM の機能

次に、ILOM の機能一覧を示します。

ILOM の機能

- IPMI v2.0
 - SNMP V1、V2c、V3 (SNMP トラップのエクスポートに完全対応)
 - DMTF スタイルの CLI
-

ILOM の機能 (続き)

- SSH v2.0
- Web GUI またはブラウザユーザーインターフェース (BUI)
- DNS のサポート*
- リモートハードウェアの監視:
 - システム状態およびイベントログ
 - CRU および FRU (PSU、ファン、ディスク、CPU、メモリー、マザーボード)
 - 環境 (温度)
 - センサー (電圧、電流、電力)
 - インジケータ (LED)
- 警告:
 - SNMP トラップ警告、IPMI PET 警告、電子メール警告、電子メールおよび SMTP 警告
 - リモート syslog
- ハードウェア FRU のインベントリおよび有無:
 - FRU の有無および状態
 - 部品番号、バージョン番号、シリアル番号
 - NIC カードの MAC アドレス
- リモートアクセス:
 - リモートストレージ
 - シリアルポートと LAN を介したシステムのシリアルコンソールのリダイレクト
 - リモート KVM
 - リモートクライアントブラウザへの OS のグラフィカルコンソールのリダイレクト
 - リモートストレージ
 - システムへのリモート CD/DVD の接続
- システムの電源の制御および監視:
 - 電源投入、電源切断、電源リセット、電圧/電流/電力
- ILOM ユーザーアカウントの監査および管理
- 認証:
 - LDAP、RADIUS、ADS (2.0)
- エラー / 障害管理
- システム BIOS/POST およびセンサーの監視
- シャーシ監視モジュール (CMM) 機能 (サーバーモジュールのみ):
 - ドリルダウン
 - シングルサインオン
 - 物理的な表示
 - NEM プロキシアクセスおよびホットプラグ

* ILOM 3.0 で利用可能となる予定

ILOM の機能の詳細については、次のサイトを参照してください。

<http://www.sun.com/systemmanagement/ilom.jsp>

ELOM から ILOM に移行しない場合

できるだけ早くサーバーを ILOM に移行することをお勧めします。ただし、ILOM ベースのサーバーを ELOM にダウングレードし、後日 ELOM から ILOM に移行した方が便利な場合もあります。サーバーまたはサーバーモジュールを ILOM から ELOM にダウングレードする方法については、[第 6 章](#)を参照してください。

ELOM から ILOM への移行プロセスについて

この節では、ELOM から ILOM への移行プロセスの概要を示し、サーバーのアップグレードを成功させるために実行する必要がある手順について詳しく説明します。

ELOM から ILOM へのアップグレードは、最新バージョンのファームウェアへのアップグレードに非常に似ています。同じインタフェースを使用でき、機能面では同じプロセスです。たとえば、Web GUI または CLI で、BIOS とサービスプロセッサ (SP) の両方を同時にアップグレードする複合ファームウェアイメージファイルを使用してサーバーをアップグレードすることができます。また、複数のサーバーをアップグレードする場合、CLI でスクリプト作成言語を使用して、アップグレードを実行するスクリプトを作成できます。

ELOM から ILOM にアップグレードする場合は、次の方法を使用できます。

- Web GUI
- CLI
- CLI とアップグレードスクリプト

移行プロセス

移行プロセスでは、アップグレードを 2 回実行する必要があります。まず、ELOM を一時または暫定バージョンの ELOM にアップグレードします。次に、暫定バージョンの ELOM から最終バージョンの ILOM にアップグレードします。[図 1](#) は、基本的な移行プロセスを示しています。

図1 基本的な移行プロセス



注 - 暫定バージョンの ELOM は、通常のシステム管理ではサポートされていません。暫定バージョンの ELOM は、ILOM への移行プロセスでのみ使用します。

移行プロセスの準備

サーバーを暫定バージョンの ELOM にアップグレードする前に、いくつか準備手順を実行する必要があります。この準備手順には、『ご使用にあたって』を確認する、BIOS セットアップユーティリティにアクセスしてカスタム設定を記録する、必要なファームウェアファイルをダウンロードする、などが含まれます。[移行作業の表](#)に、すべての手順、作業、および関連する節を示します。



注意 - 本書に記載されている手順では、電源を何度も再投入する必要があり、そのたびに SP が再起動されます。電源の再投入後、SP のゲートウェイアドレスが失われることがあります。移行プロセスを開始する前に、サーバーまたはサーバーモジュールの電源を再投入し、SP のゲートウェイアドレスが保持されていることを確認してください。アドレスが保持されていない場合は、電源の再投入後に CLI を使用してゲートウェイアドレスを設定してください。詳細については、サーバーの『ご使用にあたって』を参照してください。

移行作業の表

次の表に、手順と関連する節および手順を示します。

手順	作業	節または手順
1	サーバーの『ご使用にあたって』と、ELOM および ILOM のドキュメントを確認します。	『ご使用にあたって』と、ELOM および ILOM のドキュメントを確認する」(8 ページ)
2	BIOS にアクセスし、カスタマイズされた設定を記録します。	「BIOS にアクセスして カスタマイズされた設定を記録する」(9 ページ)
3	IP ゲートウェイアドレスを取得します。	「ゲートウェイ IP アドレスを記録する」(10 ページ)
4	サーバーのファームウェアファイルをダウンロードしてコピーします。	「サーバーのファームウェアアップグレードファイルをダウンロードしてコピーする」(12 ページ)
5	構成設定を保持します。	「構成設定を保持する」(15 ページ)
6	移行プロセスを開始します。 <ul style="list-style-type: none">• CLI と移行プロセス用のアップグレードスクリプトを使用します。 <p>-または-</p> <ul style="list-style-type: none">• Web GUI または CLI を使用して暫定バージョンの ELOM にアップグレードします。	「コマンド行インタフェース (CLI) とアップグレードスクリプトを使用して ILOM に移行する」(16 ページ) 第 2 章
7	ELOM から ILOM に移行します。	第 3 章
8	アップグレードに失敗した場合は、必要に応じて回復します。 <ul style="list-style-type: none">• Sun Fire X4150 および X4450 サーバーの場合• Sun Blade X6250 および X6450 サーバーモジュールの場合	第 4 章 第 5 章

『ご使用にあたって』と、ELOM および ILOM のドキュメントを確認する

この節では、サーバーのドキュメントコレクションにアクセスして『ご使用にあたって』を確認し、最新バージョンの ELOM および ILOM のドキュメントを入手する方法について説明します。『ご使用にあたって』には、Tools and Drivers CD のバージョン情報や、ハードウェア、ソフトウェア、BIOS、および SP に関する問題など、サーバーに関する最新の情報が記載されています。

また、ELOM および ILOM のドキュメントは、サーバーのドキュメントコレクションで入手できます。ELOM のバージョンによって異なる点があるため、ご使用のサーバーの『Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』に従って後述の手順を実行することをお勧めします。

後述の手順に従って『ご使用にあたって』にアクセスし、次のものを特定します。

- 暫定バージョンの ELOM (SP) が収録されている Tools and Drivers CD のバージョン
- Tools and Drivers CD のダウンロード URL
- ELOM から ILOM に移行するためのサーバー固有のその他の要件
- ご使用のサーバーの ILOM 固有の要件

▼ 『ご使用にあたって』と、ELOM および ILOM のドキュメントを確認するには

1. ご使用のサーバーまたはサーバーモジュールの『ご使用にあたって』で、ILOM に関する情報や ELOM から ILOM への移行に関する情報を確認します。
 - a. ブラウザを開き、次のいずれかにアクセスします。

サーバー	オンラインドキュメントコレクション
Sun Fire X4150	http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4150#hic
Sun Fire X4450	http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4450#hic
Sun Blade X6250	http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.x6250#hic
Sun Blade X6450	http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.x6450#hic

- b. ご使用のサーバーまたはサーバーモジュールのドキュメントコレクションをクリックして展開します。
2. 『ご使用にあたって』の表示またはダウンロードを選択します。

3. このドキュメントで ELOM から ILOM への移行に関する情報や問題を確認し、次の表を使用して CD のバージョン、URL、およびファイル名を記録します。

特定するもの	記録内容
暫定バージョンの ELOM および ILOM のファームウェアファイルが収録されている Tools and Drivers CD のバージョン	
Tools and Drivers CD のダウンロード URL	
暫定バージョンの ELOM ファームウェアファイルの名前	
ILOM ファームウェアファイルの名前	

4. ご使用のサーバーの ELOM および ILOM のドキュメントをダウンロードします。

Web GUI の画面と、CLI コマンドおよび名前空間は、ELOM のバージョンによって異なります。したがって、本書の手順に記載されているコマンドや参照先がご使用のサーバーのものとは異なっている場合があります。後述の手順を実行する際は、ご使用のサーバーまたはサーバーモジュールの『Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参考にしてください。

BIOS にアクセスして カスタマイズされた設定を記録する

移行プロセスでは、BIOS 設定が保持されません。BIOS 設定をデフォルト値からカスタマイズ (変更) している場合は、BIOS セットアップユーティリティーにアクセスして設定を確認し、移行プロセスが終了したときに再度入力できるよう必要に応じてこれらの値を記録しておいてください。

開始前のご注意

次のものがが必要です。

- 端末エミュレーションソフトウェアを実行するシリアル端末またはコンピュータ
- カスタム設定を記録する手段

▼ BIOS にアクセスしてカスタマイズされた設定を記録するには

1. POST メッセージおよび起動メッセージに応答できるようにサーバーまたはサーバーモジュールを設定します。

端末エミュレーションソフトウェアを実行するシリアル端末またはコンピュータを使用します。キーボード、ビデオ、およびマウスを使用して POST メッセージおよび起動メッセージに応答できるようにサーバーまたはサーバーモジュールを設定する方法については、ご使用のサーバーの『設置マニュアル』または『Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

2. サーバーを再起動し、画面に BIOS プロンプトが表示されるまで待ちます。
F2 キーを押して BIOS セットアップユーティリティを開くように求めるプロンプトが表示されます。
3. プロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS セットアップユーティリティを開きます。
BIOS セットアップユーティリティのメイン画面が表示されます。
4. 矢印キーを使用して BIOS セットアップユーティリティのメニューを移動し、BIOS 設定を表示します。
5. 各メニューを順に表示して、カスタマイズされた (デフォルト以外の) 値を記録します。
6. BIOS セットアップユーティリティを終了するには、Esc キー (または F10 キー) を押します。
サーバーが起動します。

ゲートウェイ IP アドレスを記録する

この節に記載されている手順では、SP を再起動する必要があります。再起動後、SP のゲートウェイアドレスが失われることがあります。移行プロセスを開始する前に、ゲートウェイアドレスを記録し、サーバーまたはサーバーモジュールの電源を再投入して、SP のゲートウェイアドレスが保持されていることを確認してください。アドレスが保持されていない場合は、電源の再投入後に CLI を使用してゲートウェイアドレスを設定してください。

▼ Web GUI を使用してゲートウェイ IP アドレスを記録するには

1. Web ブラウザを起動し、サーバーの SP の IP アドレスを次のように入力します。
`http://xxx.xxx.xxx.xxx`
xxx.xxx.xxx.xxx は、SP の IP アドレスです。
ELOM の Web GUI のログイン画面が表示されます。
2. root として、または管理者権限を持つアカウントを使用してログインします。
ELOM の Web GUI のメイン画面が表示されます。
3. 「Configuration (構成)」タブをクリックします。
「Configuration (構成)」サブメニュー画面が表示されます。
4. 「Network (ネットワーク)」タブをクリックして、ゲートウェイ IP アドレスを次の表に記録します。

ゲートウェイ IP アドレス =

5. ELOM の Web GUI を終了するには、「log out (ログアウト)」をクリックします。

▼ CLI を使用してゲートウェイ IP アドレスを記録するには

1. CLI にログインします。
CLI のアクセスオプションおよびログイン手順については、ご使用のサーバーの『Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。
CLI プロンプトが表示されます。
->

注 – この節に記載されている CLI コマンド、構文、および名前空間は、ご使用のサーバーで使用されているコマンド、構文、および名前空間と異なる場合があります。適切なコマンド、構文、および名前空間については、ご使用のサーバーまたはサーバーモジュールの『Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

2. ネットワークディレクトリに移動して、show コマンドを入力します。次に例を示します。

```
-> cd /SP/network  
-> show
```

ネットワーク設定が表示されます。

3. ゲートウェイ IP アドレスを次の表に記録します。

ゲートウェイ IP アドレス =

4. CLI を終了するには、exit コマンドを使用します。

```
-> exit
```

サーバーのファームウェアアップグレード ファイルをダウンロードしてコピーする

サーバーを ILOM に移行するには、必要なファームウェアファイルをダウンロードしてコピーする必要があります。各ファイルは、製品の Sun ダウンロードサイトからオンラインで入手できます。適切な Tools and Drivers CD をダウンロードするか、.zip としてファイルをダウンロードすることができます。

▼ サーバーのファームウェアアップグレード ファイルをダウンロードしてコピーするには

1. ブラウザを開き、次のいずれかを実行します。
 - a. 『[『ご使用にあたって』](#)』と、[ELOM および ILOM のドキュメントを確認するには](#) (8 ページ) の手順で記録したダウンロードリンクを入力し、[手順 2](#) に進みます。

-または-

- a. ご使用のサーバーの Sun 製品ページにアクセスします。

サーバーまたはサーバーモジュール	製品ページの URL
Sun Fire X4150	http://www.sun.com/servers/x64/x4150/index.xml
Sun Fire X4450	http://www.sun.com/servers/x64/x4450/index.xml
Sun Blade X6250	http://www.sun.com/servers/blades/downloads.jsp
Sun Blade X6450	http://www.sun.com/servers/blades/downloads.jsp

サーバーの製品ページが表示されます。

- b. 次のいずれかを実行して、サーバーまたはサーバーモジュールのダウンロードリンクに移動します。
- Sun Fire X4150 および X4450 サーバーの場合:
 - i. 「Support (サポート)」 タブをクリックします。
 - ii. 「Downloads (ダウンロード)」 という見出しの下にある 「Latest Drivers and Firmware (最新のドライバおよびファームウェア)」 をクリックします。
サーバーまたはサーバーモジュールのダウンロードページが表示されます。
 - iii. 「『ご使用にあたって』と、ELOM および ILOM のドキュメントを確認するには」 (8 ページ) で記録した Tools and Drivers CD バージョンの 「Download (ダウンロード)」 をクリックします。
 - iv. 条項に同意してダウンロードページにログインします。
 - v. ダウンロードページで、次のいずれかを実行します。
 - Tools and Drivers CD の ISO イメージファイルをダウンロードして、そのファイルの CD を作成します。

ヒント – ISO イメージファイルをマウントすることもできます。

-または-

-- elom_to_ilom.zip ファイルをダウンロードして、ファイルを解凍します。

- vi. **手順 2** に進みます。
- Sun Blade X6250 および X6450 サーバーモジュールの場合:
 - i. 「『ご使用にあたって』と、ELOM および ILOM のドキュメントを確認するには」 (8 ページ) で記録した Tools and Drivers CD バージョンの 「Download (ダウンロード)」 をクリックします。
 - ii. 条項に同意してダウンロードページにログインします。

iii. Tools and Drivers CD の ISO イメージファイルをダウンロードして、そのファイルの CD を作成します。

2. Tools and Drivers CD に収録されている暫定バージョンの ELOM ファームウェアファイル (または解凍したファイル) を、サーバーがアクセスできるデバイスにコピーします。

ヒント – CLI を使用してアップグレードを実行する場合は、ファイルを TFTP サーバーにコピーします。

ディレクトリ構造とファイル命名規則は、サーバーによって異なります。

サーバー	Tools and Drivers CD 上の暫定バージョンの ELOM ファームウェアファイルへのパス
Sun Fire X4150	\remoteflash\elom_to_ilom\X4150-026_450
Sun Fire X4450	\remoteflash\elom_to_ilom\X4450-450_3B17
サーバーモジュール	
Sun Blade X6250	\firmware\elom_to_ilom\Telom_X6250-053_040.ROM
Sun Blade X6450	\firmware\elom_to_ilom\Telom_X6450-028_08.ROM

3. Tools and Drivers CD に収録されている複合 ILOM ファームウェアファイル (または解凍したファイル) を、サーバーがアクセスできるデバイスにコピーします。

複合 ILOM ファームウェアイメージファイルは、.bin ファイルです。ディレクトリ構造とファイル命名規則は、サーバーによって異なります。

サーバー	Tools and Drivers CD 上の複合 ILOM ファームウェアのイメージファイルへのパス
Sun Fire X4150	\remoteflash\elom_to_ilom\X4150-2.0.2.6.bin
Sun Fire X4450	\remoteflash\elom_to_ilom\X4450-2.0.2.6.bin
サーバーモジュール	
Sun Blade X6250	\firmware\elom_to_ilom\6250i20.bin
Sun Blade X6450	\firmware\elom_to_ilom\6450i20.bin

構成設定を保持する

ELOM から ILOM への移行プロセスでは、ELOM の構成設定の保持を選択できます。ELOM から ILOM への移行時に ELOM の構成設定を保持する場合は、暫定バージョンの ELOM にアップグレードするときと、その後 ILOM にアップグレードするときに設定の保持を選択してください。選択しない場合、ELOM の構成設定はすべて失われます。ただし、ELOM と ILOM の違いにより、ELOM の一部の機能は ILOM ではサポートされておらず、したがって保持されません。

次に、サポートされておらず、移行プロセスで保持されない構成設定の一覧を示します。

-
- | | |
|---|---|
| • ユーザー権限が設定されたユーザー名
およびユーザーパスワード | • センサーイベントによってトリガーされる
ホストの NMI アクション |
| • コールバック権限が設定されたユーザー
名およびユーザーパスワード | • センサーの種類による PEF フィルタ
リング |
| • Active Directory Service (ADS) | • システムイベントログ (SEL) |
| • センサーイベントによってトリガーされる
電源制御 PEF アクション | • SMTP 送信側の電子メールアドレス |
-

次に、移行プロセスで保持される構成設定の一覧を示します。

-
- | | |
|--------------------------------------|------------------|
| • 管理者権限が設定されたユーザー名
およびユーザーパスワード | • NTP 構成 |
| • オペレータ権限が設定されたユーザー名
およびユーザーパスワード | • syslog 構成 |
| • ネットワーク設定 | • SNMP エージェントの構成 |
| • ホスト名 | • SNMP コミュニティ |
| • PET 構成 | • SNMP v3 ユーザー |
| • SMTP 構成 | • SSH キー |
| • 電子メール警告の構成 | • SSL 証明書 |
-

ユーザー権限またはコールバック権限を持つユーザーアカウントを保持する

ユーザー権限またはコールバック権限が設定されたユーザーアカウントのユーザー名およびパスワードを保持する必要がある場合は、アップグレードを実行する前に、これらのアカウントの権限の設定をオペレータまたは管理者にします。ただし、ユーザーアカウントの権限の設定を変更すると、セキュリティリスクが生じる可能性があります。ユーザーアカウントの管理方法およびユーザーアカウントの権限のアップグレード(変更)方法については、ご使用のサーバーの『Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

コマンド行インタフェース (CLI) とアップグレードスクリプトを使用して ILOM に移行する

アップグレードスクリプトを使用して移行プロセスを実行することができます。スクリプトを使用すると、連続して複数のサーバーを ILOM にアップグレードできます。アップグレードスクリプトは、Tools and Drivers CD に収録されています。

- Sun Fire X4150 および Sun Fire X4450 サーバーの場合、アップグレードスクリプトは `\remoteflash\elom_to_ilom\example\` にあります。
Sun Fire X4150 および X4450 のサンプルスクリプトは、複数のサーバーのアップグレードを実行するためのテンプレートとして使用できる実用的なスクリプトです。このスクリプトは、本書の情報に基づいて作成されています。サンプルスクリプトの詳細については、同じディレクトリにある `readme.txt` ファイルを参照してください。
- Sun Blade X6250 および Sun Blade X6450 サーバーモジュールの場合、アップグレードバッチファイルの名前は `\firmware\elom_to_ilom\dos\3B16.bat` です。

暫定バージョンの ELOM への サーバーまたはサーバーモジュール のアップグレード

この章を参考にして、Sun Fire X4150、Sun Fire X4450、Sun Blade X6250、Sun Blade X6450 の各サーバーおよびサーバーモジュールを暫定バージョンの ELOM にアップグレードしてください。

暫定バージョンの ELOM への アップグレード

サーバーまたはサーバーモジュールを ILOM にアップグレードする前に、まず暫定バージョンの ELOM にアップグレードします。暫定バージョンの ELOM は、ILOM への移行を可能にする機能が含まれた一時的なバージョンです。



注意 - アップグレードの実行に必要な時間以外は、サーバーまたはサーバーモジュールで暫定バージョンの ELOM を使用しないでください。

開始前のご注意

まず次のことを実行する必要があります。

- 『ご使用にあたって』を確認し、移行に関する情報を記録して、ELOM および ILOM のドキュメントをダウンロードします。「『ご使用にあたって』と、ELOM および ILOM のドキュメントを確認する」(8 ページ)を参照してください。
- BIOS にアクセスし、カスタマイズされた設定を記録します。「BIOS にアクセスしてカスタマイズされた設定を記録する」(9 ページ)を参照してください。
- ダウンロードサイトからファームウェアファイルをダウンロードしてコピーします。「サーバーのファームウェアアップグレードファイルをダウンロードしてコピーする」(12 ページ)を参照してください。
- 構成設定を保持するかどうかと、ユーザー権限およびコールバック権限を持つユーザーアカウントをアップグレードするかどうかを決定します(省略可)。「構成設定を保持する」(15 ページ)を参照してください。
- この節に記載されている手順を確認します。
- CLI ベースのアップグレードの場合、CLI にアクセスするようにサーバーまたはサーバーモジュールを設定します。CLI のアクセスオプションについては、ご使用のサーバーの『Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

暫定バージョンの ELOM にアップグレードする場合、次のオプションがあります。

アップグレード方法	参照する節または手順
ELOM Web GUI を使用します。	「Web GUI を使用して暫定バージョンの ELOM にアップグレードするには」(19 ページ)
ELOM CLI を使用します。	「コマンド行インタフェース (CLI) を使用して暫定バージョンの ELOM にアップグレードするには」(21 ページ)
ELOM CLI とアップグレードスクリプトを使用します (Sun Fire X4150 および X4450 のみ)。	「コマンド行インタフェース (CLI) とアップグレードスクリプトを使用して ILOM に移行する」(16 ページ)



注意 - 移行ソフトウェアが収録されているメディアがターゲットシステム (移行が適用されるシステム) 上にある場合、ELOM の「Remote Control (リモートコントロール)」-「Redirection (リダイレクト)」のリモートキーボードおよび仮想マウス (RKVM) による CD またはフロッピーディスクのマウント機能は使用しないでください。ローカルのキーボードとマウスを使用する必要があります。アップデート中、マウント機能は正常に動作しません。

または、本書で後述するように、Web GUI または CLI を使用し、ターゲットシステム以外のシステム上にあるファームウェアアップデートバイナリを使用してファームウェアのアップデートを実行します。

▼ Web GUI を使用して暫定バージョンの ELOM にアップグレードするには

注 – アップグレードの実行に必要な時間以外は、サーバーまたはサーバーモジュールで暫定バージョンの ELOM を使用しないでください。

1. 次の手順に従って OS のクリーンシャットダウンを実行し、サーバーまたはサーバーモジュールをスタンバイ電源モードにします。



注意 – BIOS POST (電源投入時のシステムテスト) の実行中は、サーバーの電源を切らないでください。BIOS POST の実行中にサーバーの電源を切ると、BIOS チップが破損してロックされ、サーバーが動作しなくなる場合があります。BIOS チップの破損とロックを防ぐため、必ず OS のクリーンシャットダウンを実行してください。破損した BIOS チップを回復するには、[第 4 章](#)および[第 5 章](#)の回復手順を参照してください。

- サーバーに OS がインストールされている場合:
 - a. オペレーティングシステムを起動します。
 - b. ログインし、OS 固有のシャットダウン手順に従ってシステムの電源を正常に切ります。
サーバーの電源が切れ、スタンバイ電源モードになります。[手順 2](#)に進みます。
- サーバーに OS がインストールされていない場合:
 - a. Web ブラウザを起動し、サーバーの SP の IP アドレスを次のように入力します。
`http://xxx.xxx.xxx.xxx`
`xxx.xxx.xxx.xxx` は、SP の IP アドレスです。
ELOM の Web GUI のログイン画面が表示されます。
 - b. `root` として、または管理者権限を持つアカウントを使用してログインします。
ELOM の Web GUI のメイン画面が表示されます。
 - c. 「Remote Control (リモートコントロール)」 タブをクリックします。
「Remote Control (リモートコントロール)」 サブメニュータブが表示されます。
 - d. 「Remote Power Control (リモート電源制御)」 タブをクリックします。
「Remote Power Control (リモート電源制御)」 サブメニュー画面が表示されます。
 - e. 「Power Off (電源オフ)」 ラジオボタンをオンにし、「Submit (送信)」または「Save (保存)」 ボタンをクリックします。
サーバーの電源が切れ、スタンバイ電源モードになります。[手順 4](#)に進みます。

2. Web ブラウザを起動し、サーバーの SP の IP アドレスを入力します。
次に例を示します。
`http://xxx.xxx.xxx.xxx`
xxx.xxx.xxx.xxx は、SP の IP アドレスです。
ELOM の Web GUI のログイン画面が表示されます。
3. root として、または管理者権限を持つアカウントを使用してログインします。
ELOM の Web GUI のメイン画面が表示されます。
4. メインメニューの「Maintenance (保守)」タブをクリックします。
「Maintenance (保守)」サブメニュータブが表示されます。
5. 「Firmware Upgrade (ファームウェアのアップグレード)」タブをクリックします。
「Firmware Upgrade (ファームウェアのアップグレード)」画面が表示されます。
6. 「Enter Firmware Upgrade Mode (ファームウェアのアップグレードモードに切り替え)」ボタンをクリックします。
7. ファームウェアアップグレードファイルを指定します。
 - a. 「Browse (参照)」をクリックします。
 - b. コピーした暫定バージョンの ELOM ファームウェアファイルを探します
(「サーバーのファームウェアアップグレードファイルをダウンロードしてコピーする」(12 ページ)を参照)。
ファイル命名規則は、プラットフォームによって異なります。

サーバー	ファイル名
Sun Fire X4150	X4150-026_450
Sun Fire X4450	X4450-450_3B17
Sun Blade X6250	Telom_X6250-053_040.ROM
Sun Blade X6450	Telom_X6450-028_08.ROM

- c. ファイルを選択し、「Open (開く)」をクリックします。
8. デフォルト設定の「Clear BIOS CMOS (BIOS CMOS のクリア)」を受け入れ、ファームウェアのアップグレードを開始するために、「Update Firmware (ファームウェアのアップデート)」ボタンをクリックします。
ファームウェアのアップグレードプロセスでは、BIOS と SP ファームウェアの両方がアップデートされます。アップグレードが完了すると、暫定バージョンの ELOM が起動し、Web セッションが再開されます。
9. SP が再起動したら、直接第 3 章に進みます。



注意 – 暫定バージョンの ELOM に移行した後は、システムの電源を入れないでください。

▼ コマンド行インタフェース (CLI) を使用して暫定バージョンの ELOM にアップグレードするには

注 – アップグレードの実行に必要な時間以外は、サーバーまたはサーバーモジュールで暫定バージョンの ELOM を使用しないでください。

1. 次の手順に従って OS のクリーンシャットダウンを実行し、サーバーをスタンバイ電源モードにします。



注意 – BIOS POST (電源投入時のシステムテスト) の実行中は、サーバーの電源を切らないでください。BIOS POST の実行中にサーバーの電源を切ると、BIOS チップが破損してロックされ、サーバーが動作しなくなる場合があります。BIOS チップの破損とロックを防ぐため、必ず OS のクリーンシャットダウンを実行してください。破損した BIOS チップを回復するには、[第 4 章](#)および[第 5 章](#)の回復手順を参照してください。

- a. オペレーティングシステムを起動します。
 - b. ログインし、OS 固有のシャットダウン手順に従ってシステムの電源を正常に切ります。
サーバーの電源が切れ、スタンバイ電源モードになります。
2. 暫定バージョンの ELOM ファームウェアファイルを TFTP サーバーにコピーします。

サーバー	暫定バージョンの ELOM ファームウェアファイルの名前
Sun Fire X4150	X4150-026_450
Sun Fire X4450	X4450-450_3B17
Sun Blade X6250	Telom_X6250-053_040.ROM
Sun Blade X6450	Telom_X6450-028_08.ROM

3. CLI にログインします。

CLI のアクセスオプションおよびログイン手順については、ご使用のサーバーの『Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

注 – この節に記載されている CLI コマンド、構文、および名前空間は、ご使用のサーバーで使用されているコマンド、構文、および名前空間と異なる場合があります。適切なコマンド、構文、および名前空間については、ご使用のサーバーまたはサーバーモジュールの『Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

4. TftpUpdate ディレクトリに移動します。次に例を示します。

```
-> cd /SP/TftpUpdate
```

5. set コマンドを使用して、TFTP サーバーの IP アドレスを設定します。次に例を示します。

```
-> set ServerIP=xxx.xxx.xxx.xxx
```

xxx.xxx.xxx.xxx は、TFTP サーバーの IP アドレスです。

6. set コマンドを使用して、暫定バージョンの ELOM ファームウェアのイメージファイルのファイル名を設定します。

たとえば、Sun Fire X4150 の場合、次のように入力します。

```
-> set Filename=X4150-026_450
```

7. TFTP ダウンロードを開始します。次に例を示します。

```
-> set Update=action
```

注 – ファイルのアップロード中にネットワーク障害が発生すると、タイムアウトとなります。このため、SP は以前のバージョンのファームウェアで再起動します。

8. 「Yes (はい)」を選択して続行するか、「No (いいえ)」を選択して終了します。
アップデートプロセスが開始されます。

例:

```
-> cd /SP/TftpUpdate
-> set ServerIP=xxx.xxx.xxx.xxx
-> set FileName=X4150-026_450
-> set Update=action
getting image...
getting image successfully.
prepare to update...
Prepare OK!
Update Successful
starting update...
```

ファームウェアのアップグレードプロセスでは、BIOS と SP ファームウェアの両方がアップデートされます。アップグレードが完了すると、暫定バージョンの ELOM が起動します。

9. SP が再起動したら、直接第 3 章に進みます。



注意 – 暫定バージョンの ELOM に移行した後は、システムの電源を入れしないでください。

ILOM へのサーバーまたはサーバーモジュールの移行

この章を参考にして、Sun Fire X4150、Sun Fire X4450、Sun Blade X6250、Sun Blade X6450 の各サーバーおよびサーバーモジュールを暫定バージョンの ELOM から ILOM にアップグレードしてください。この章では、サーバーまたはサーバーモジュールを暫定バージョンの ELOM から最終バージョンの ILOM に移行する方法を、手順を示して説明します。

移行手順は、機能面では通常の ELOM ファームウェアのアップグレード手順と同じです。Web GUI または CLI を使用して ILOM に移行できます。複合ファームウェアイメージファイルは、BIOS と SP の両方を同時にアップグレードするために使用します。ただし、.pkg ファイルを使用する通常の ILOM アップグレードと異なり、.bin 複合ファームウェアイメージファイルを使用する必要があります。



注意- Tools and Drivers CD に収録されている .pkg 複合ファームウェアイメージファイルを使用しないでください。.pkg ファイルは、ILOM から ILOM へのアップデートにのみ使用します。

開始前のご注意

- サーバーまたはサーバーモジュールを、あらかじめ暫定バージョンの ELOM にアップデートしておく必要があります (第 2 章を参照)。

ファームウェアを ILOM にアップグレードする場合、次のオプションがあります。

アップグレード方法	参照する節または手順
ELOM Web GUI を使用する	「Web GUI を使用して ILOM に移行するには」(26 ページ)
ELOM CLI を使用する	「コマンド行インタフェース (CLI) を使用して ILOM に移行するには」(29 ページ)
USB フラッシュドライブを使用して、Sun Blade X6250 および X6450 サーバーをアップグレードする	「DOS 起動 USB フラッシュドライブを使用して Sun Blade X6250 および X6450 サーバー モジュールを ILOM にアップグレードするには」(32 ページ)

▼ Web GUI を使用して ILOM に移行するには



注意- BIOS POST (電源投入時のシステムテスト) の実行中は、サーバーの電源を切らないでください。BIOS POST の実行中にサーバーの電源を切ると、BIOS チップが破損してロックされ、サーバーが動作しなくなる場合があります。BIOS チップの破損とロックを防ぐため、必ず OS のクリーンシャットダウンを実行してください。破損した BIOS チップを回復するには、[第 4 章](#)および[第 5 章](#)の回復手順を参照してください。

注- 暫定バージョンの ELOM は、Firefox バージョン 3.0.1 には対応していません。別のバージョンの Firefox または別のブラウザで CLI を使用して、次の手順を実行してください。

1. 暫定バージョンの ELOM に移行した後にシステムの電源を入れ、OS を起動した場合、OS のクリーンシャットダウンを実行し、サーバーまたはサーバーモジュールをスタンバイ電源モードにしてからこの手順を続行してください。

クリーンシャットダウンを実行するには、OS 固有のシャットダウン手順に従います。

2. ブラウザのアドレスバーに、サーバーの SP の IP アドレスを入力します。

次に例を示します。

```
http://xxx.xxx.xxx.xxx
```

xxx.xxx.xxx.xxx は、SP の IP アドレスです。

ELOM の Web GUI のログイン画面が表示されます。

3. root として、または管理者権限を持つアカウントを使用してログインします。

ELOM の Web GUI のメイン画面が表示されます。

4. メインメニューの「Maintenance (保守)」タブをクリックします。
「Maintenance (保守)」サブメニュータブが表示されます。
5. 「Firmware Upgrade (ファームウェアのアップグレード)」タブをクリックします。
「Firmware Upgrade (ファームウェアのアップグレード)」画面が表示されます。
6. 「Enter Firmware Upgrade Mode (ファームウェアのアップグレードモードに切り替え)」ボタンをクリックします。
7. ファームウェアアップグレードファイルを指定します。
 - a. 「Browse (参照)」をクリックします。



注意- .pkg ファイルは使用しないでください。

- b. コピーした複合 ILOM ファームウェアイメージファイルを探します。(第 1 章を参照)。

サーバーまたはサーバーモジュール	ILOM イメージファイル
Sun Fire X4150	X4150-2.0.2.6.bin
Sun Fire X4450	X4450-2.0.2.6.bin
Sun Fire X6250	6250i20.bin
Sun Fire X6450	6450i20.bin

- c. .bin ファイルを選択し、「Open (開く)」をクリックします。
- d. 「Preserve BIOS CMOS (BIOS CMOS を保持)」を選択します。
この時点では、デフォルトの BIOS 値のみが読み込まれます。



注意- プロセスを中断しないでください。アップグレードプロセスは、完了までに最大 5 分かかることがあります。プロセスを中断すると、BIOS および SP が破損する可能性があります (回復手順については、第 4 章および第 5 章を参照してください)。

8. ファームウェアのアップグレードを開始するには、「Update Firmware (ファームウェアのアップデート)」ボタンをクリックします。

ファームウェアのアップグレードプロセスが開始されます。BIOS と SP の両方をアップグレードするこのプロセスの所要時間は約 5 分です。

アップグレードが完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
File uploaded successfully. (ファイルが正常にアップロードされました。)
```

アップグレードが正常に完了すると、ILOM/SP が起動し、次のメッセージが表示されます。

```
SP is booting. (SP を起動しています。)
```

SP の起動には 6 ～ 10 分かかります。コンソールに起動の進捗状況メッセージが表示され、最後に次のメッセージが表示される場合があります。

```
-> /etc/ssh/ssh_host_dsa_key already exists.  
Overwrite (y/n)? (/etc/ssh/ssh_host_dsa_key がすでに存在します。上書き  
しますか (y/n)?)
```

「Y」と入力しますが、このメッセージは無視してかまいません。SP が起動すると、Web セッションが再開されます。サーバーは 2 回起動します。最初の起動時は、ファンクションキーを使用するプロンプトは表示されません。サーバーの電源を入れると、BIOS のバージョン情報が更新されます。

- 次のエラーメッセージのいずれかが表示された場合は、ファームウェアが正常にアップグレードされていません。

```
Firmware size incorrect. (ファームウェアのサイズが正しくありません。)  
Incorrect image type. (イメージの種類が正しくありません。)  
BIOS upgrade failed. (BIOS のアップグレードに失敗しました。)
```

- アップグレードに失敗した場合、Web GUI に再度ログインし、アップグレードを再試行します。再度エラーが発生する場合は、[第 4 章](#)および[第 5 章](#)の回復手順を参照してください。

9. プロセスが完了したら、サーバーの電源を再投入し、サーバーを起動します。
10. 必要に応じて、BIOS セットアップユーティリティを開き、設定をカスタマイズします。

▼ コマンド行インタフェース (CLI) を使用して ILOM に移行するには



注意- BIOS POST (電源投入時のシステムテスト) の実行中は、サーバーの電源を切らないでください。BIOS POST の実行中にサーバーの電源を切ると、BIOS チップが破損してロックされ、サーバーが動作しなくなる場合があります。BIOS チップの破損とロックを防ぐため、必ず OS のクリーンシャットダウンを実行してください。破損した BIOS チップを回復するには、[第 4 章](#)および[第 5 章](#)の回復手順を参照してください。

1. 暫定バージョンの ILOM に移行した後にシステムの電源を入れ、OS を起動した場合、OS のクリーンシャットダウンを実行してからこの手順を続行してください。OS 固有のシャットダウン手順に従います。

注- この節に記載されている CLI コマンド、構文、および名前空間は、ご使用のサーバーで使用されているコマンド、構文、および名前空間と異なる場合があります。適切なコマンド、構文、および名前空間については、ご使用のサーバーの『Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

2. 複合 ILOM ファームウェアイメージファイルを TFTP サーバーにコピーします。

サーバーまたはサーバーモジュール	ILOM イメージファイル
Sun Fire X4150	X4150-2.0.2.6.bin
Sun Fire X4450	X4450-2.0.2.6.bin
Sun Fire X6250	6250i20.bin
Sun Fire X6450	6450i20.bin

3. CLI にログインし、TftpUpdate ディレクトリに移動します。次に例を示します。
-> `cd /SP/TftpUpdate`

注- ファイルのアップロード中にネットワーク障害が発生すると、タイムアウトとなります。このため、SP は以前のバージョンのファームウェアで再起動します。

4. set コマンドを使用して、TFTP サーバーの IP アドレスを設定します。次に例を示します。

```
-> set ServerIP=xxx.xxx.xxx.xxx
```

xxx.xxx.xxx.xxx は、TFTP サーバーの IP アドレスです。

5. set コマンドを使用して、複合ファームウェアのイメージファイルのファイル名を設定します。たとえば、Sun Fire X4150 の場合、次のように入力します。



注意— Tools and Drivers CD に収録されている .pkg 複合ファームウェアイメージファイルを使用しないでください。 .pkg ファイルは、ILOM から ILOM へのアップデートにのみ使用します。

```
-> set Filename=X4150-2.0.2.6.bin
```

6. TFTP ダウンロードを開始します。次に例を示します。

```
-> set Update=action
```

7. 「Yes (はい)」 を選択して続行します。

例:

```
-> cd /SP/TftpUpdate
-> set ServerIP=123.456.78.910
-> set FileName=X4150-2.0.2.6.bin
-> set Update=action
getting image...
getting image successfully.
prepare to update...
Prepare OK!
Update Successful
starting update...
```

ファームウェアのアップグレードプロセスが開始されます。BIOS と SP の両方をアップグレードするこのプロセスの所要時間は約 5 分です。

アップグレードが完了すると、次のメッセージが表示されます。

File uploaded successfully. (ファイルが正常にアップロードされました。)

アップグレードが正常に完了すると、ILOM/SP が起動し、次のメッセージが表示されます。

SP is booting. (SP を起動しています。)

SP の起動には 6 ～ 10 分かかります。コンソールに起動の進捗状況メッセージが表示され、最後に次のようなエラーが表示される場合があります。

```
-> /etc/ssh/ssh_host_dsa_key already exists.  
Overwrite (y/n)? (/etc/ssh/ssh_host_dsa_key がすでに存在します。上書き  
しますか (y/n)?)
```

このメッセージは無視してかまいません。SP が起動すると、セッションが再開されます。サーバーの電源を入れると、BIOS のバージョン情報が更新されます。

- 次のエラーメッセージのいずれかが表示された場合は、ファームウェアが正常にアップグレードされていません。

```
Firmware size incorrect. (ファームウェアのサイズが正しくありません。)  
Incorrect image type. (イメージの種類が正しくありません。)  
BIOS upgrade failed. (BIOS のアップグレードに失敗しました。)
```

- アップグレードに失敗した場合、Web GUI に再度ログインし、アップグレードを再実行します。再度エラーが発生する場合は、[第 4 章](#)および[第 5 章](#)の回復手順を参照してください。

8. プロセスが完了したら、サーバーの電源を入れて起動し、BIOS のバージョンをアップデートします。

サーバーは 2 回起動します。最初の起動時は、ファンクションキーを使用するプロンプトは表示されません。

9. 必要に応じて、BIOS セットアップユーティリティを開き、設定をカスタマイズします。

DOS 起動 USB フラッシュドライブを使用して Sun Blade X6250 および X6450 サーバー モジュールを ILOM にアップグレードする

この手順では、暫定バージョンの ELOM にアップグレードする必要がありません。また、ELOM または BIOS の構成設定は保持されません。この手順では、起動メッセージおよび POST メッセージを表示してそれに応答できるようにサーバーモジュールを設定する必要があります。

開始前のご注意

次のものがが必要です。

- DOS 起動 USB フラッシュドライブ
- マルチポートドングルケーブル
- 端末エミュレーションソフトウェアを実行するシリアル端末またはコンピュータ

▼ DOS 起動 USB フラッシュドライブを使用して Sun Blade X6250 および X6450 サーバー モジュールを ILOM にアップグレードするには

1. DOS 起動 USB フラッシュドライブを準備し、
Tools and Drivers CD の `\firmware\elom_to_ilom\dos\` ディレクトリの中
身を USB フラッシュドライブにコピーします。
各サーバーモジュールに固有のバイナリ (.bin) ファイルおよびバッチ (.bat) は次の
とおりです。
Sun Blade X6250: 6250i20.bin
Sun Blade X6250: 3B11.bat
Sun Blade X6450: 6450i20.bin
Sun Blade X6450: 3B16.bat
2. マルチポートドングルケーブルをサーバーモジュールの前面にある UCP コネクタ
に接続します。
3. シリアル端末をマルチポートドングルケーブルに接続します。
4. DOS 起動 USB フラッシュドライブをマルチポートドングルケーブルの USB ポー
トに挿入します。
5. サーバーモジュールの電源を入れます。
6. 画面が表示されるまで待ち、プロンプトが表示されたら F8 キーを押します。
7. DOS 起動 USB フラッシュドライブを使用したサーバーの起動を選択します。
サーバーが DOS で起動し、DOS プロンプトが表示されます。
>
8. DOS プロンプトで、次に示す各サーバーモジュール固有のコマンドを入力するか、
バッチファイルを実行します。
 - 各サーバーモジュール固有のコマンドを入力するには:
 - Sun Blade X6250 の場合:
> socflash -p 1 -v -f 6250i20.bin

- Sun Blade X6450 の場合:
 - > `socflash -p 1 -v -f 6450i20.bin`
- 各サーバーモジュール固有のバッチファイルを実行するには:
 - Sun Blade X6250 の場合:
 - > `3B11.bat`
 - Sun Blade X6450 の場合:
 - > `3B16.bat`

ILOM へのフラッシュアップグレードが開始されます。アップグレードには約 5 分かかります。アップグレードが完了すると、DOS プロンプトが表示されます。

>

9. DOS プロンプトで、次のコマンドを入力して BIOS をフラッシュします。

- Sun Blade X6250 の場合:
 - > `Afudos S90_3B11.ROM /P /B /K /X /C`
- Sun Blade X6450 の場合:
 - > `Afudos S95_3B16.ROM /P /B /K /X /C`

BIOS フラッシュプロセスが開始され、プロセスが終了すると DOS プロンプトが入力可能な状態に戻ります。

10. DOS プロンプトが入力可能な状態に戻ったら、シャーシからサーバーモジュールを取り出すことで電源を切ります。

サーバーをシャーシから完全に取り外す必要はありません。シャーシコネクタから外れる程度にサーバーモジュールを取り出します。

11. 30 秒間待つてから、サーバーモジュールをシャーシに挿入します。

12. 前面パネルの LED に注目します。

SP の起動中は緑の LED が点滅します。SP の起動には約 5 分かかります。SP の起動後は、青の LED が点灯します。

13. 青の LED が点灯したら、電源ボタンを押してブレードの電源を入れます。

14. Web GUI または CLI にログインし、サーバーモジュールが ILOM ベースになっているかを確認します。

ILOM のバージョン情報を確認する方法については、『Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』を参照してください。

Sun Fire X4150 および X4450 サーバー の ILOM アップグレードに失敗した 場合の回復方法

アップグレードに失敗した場合は、この章の手順に従って回復してください。アップグレードプロセスで次のエラーメッセージのいずれかが表示された場合は、正常にアップグレードされていません。

Firmware size incorrect. (ファームウェアのサイズが正しくありません。)

Incorrect image type. (イメージの種類が正しくありません。)

BIOS upgrade failed. (BIOS のアップグレードに失敗しました。)



注意 - この章に記載されている手順は、システムの回復にのみ使用してください。これらの手順では、BIOS および ELOM または ILOM の構成設定は保持されません。

開始前のご注意

システム起動と POST メッセージおよびプロンプトに応答できるようにサーバーを設定する必要があります。

回復対象	参照する節または手順
SP ファームウェア	「破損した SP を回復する」(36 ページ)
BIOS ファームウェア	「破損した BIOS を回復する」(38 ページ)

破損した SP を回復する

SP が起動しない場合、または SP にアクセスできない場合、SP ファームウェアを回復する必要があります。この節では、SP ファームウェアの 2 通りの回復方法について説明します。

方法	説明	手順
1	Tools and Drivers CD を使用します。	「Tools and Drivers CD を使用して破損した SP を回復するには (方法 1)」(36 ページ) を参照してください。
2	DOS 起動メディアを使用します。	「DOS 起動メディアを使用して破損した SP を回復するには (方法 2)」(37 ページ) を参照してください。

▼ Tools and Drivers CD を使用して破損した SP を回復するには (方法 1)

1. 起動メッセージおよび POST メッセージを表示してそれに応答できるようにサーバーを設定します。
2. サーバーの電源を入れ、サーバーの CD/DVD ドライブに Tools and Drivers CD を挿入します。
3. POST メッセージに注目し、プロンプトが表示されたら、F2 キーを押して BIOS セットアップユーティリティーを開きます。
BIOS セットアップユーティリティーのメイン画面が表示されます。
4. CD/DVD が一次起動デバイスになっていることを確認します。
矢印キーを使用して画面を移動します。
5. 変更を保存して BIOS セットアップユーティリティーを終了します。
サーバーが CD から起動し、Tools and Drivers のメインメニューが表示されます。
6. 終了して DOS に戻るオプションを選択します。
DOS プロンプトが表示されます。
7. `\firmware\ilom\recovery` または `\firmware\elom\recovery` のいずれかのディレクトリに移動します。

```
cd \firmware\[ilom|elom]\recovery
```

8. recovery.bat ファイルを実行します。

recovery.bat

次のオプションを示すメニューが表示されます。

1. To recover both SP and BIOS firmware (SPとBIOSの両方のファームウェアを回復)
2. To recover SP (SPを回復)
3. To recover BIOS (BIOSを回復)

9. SP を回復するオプション (オプション 2) を選択します。

SP の回復プロセスが開始されます。

10. SP の回復が完了したら、サーバーの電源を入れて起動します。

▼ DOS 起動メディアを使用して破損した SP を回復するには (方法 2)



注意 – 回復プロセスで使用するバイナリは、プラットフォームに固有のものです。X4150 用のバイナリを X4450 に使用することはできません。誤ったプラットフォーム用のバイナリを使用すると、予期しない結果を招きます。

1. DOS 起動メディアを準備します。

2. 起動メッセージおよび POST メッセージを表示してそれに応答できるようにサーバーを設定します。

3. Tools and Drivers CD をマウントします。

4. SP ファームウェアのバージョンに応じて、Tools and Drivers CD の /recovery/ilom ディレクトリまたは /recovery/elom ディレクトリの中身を DOS 起動メディアにコピーします。

5. DOS 起動メディアでサーバーを起動します。

サーバーが起動し、DOS プロンプトが表示されます。

6. SP ファームウェアをフラッシュするには、recovery.bat ファイルを実行します。

recovery.bat

7. SP の回復が完了したら、サーバーの電源を入れて起動します。

破損した BIOS を回復する

サーバーが起動しない場合、または BIOS にアクセスできない場合、BIOS ファームウェアを回復する必要があります。この節では、BIOS ファームウェアの 2 通りの回復方法について説明します。次のいずれかの回復方法を使用します。

方法 1	方法 2
Web GUI または CLI でリモートフラッシュファイルパッケージを使用します。 「リモートフラッシュファイルパッケージを使用して破損した BIOS ファームウェアを回復するには (方法 1)」(38 ページ)を参照してください。	Tools and Drivers CD を使用します。 「DOS 起動メディアを使用して破損した SP を回復するには (方法 2)」(37 ページ)を参照してください。

▼ リモートフラッシュファイルパッケージを使用して破損した BIOS ファームウェアを回復するには (方法 1)

次の手順では、フラッシュファイルパッケージを使用して BIOS ファームウェアを回復します。フラッシュファイルパッケージとは、SP と BIOS の両方をフラッシュする複合ファームウェアイメージファイルです。ELOM と ILOM のどちらのファームウェアが SP にインストールされているかを確認し、ELOM と ILOM のどちらの SP ファームウェアが現在実行されているかに応じて、適切なファイルを使用します。

どちらの SP ファームウェアがインストールされているかを確認するには、Web GUI による方法または CLI による方法を使用します。

1. どちらのタイプの SP ファームウェアがインストールされているかを確認します。
 - Web GUI による方法:
 - i. Web ブラウザで、SP のアドレスを入力します。
ログイン画面が表示されます。
 - ii. ログイン画面のタイトルに注目します。
 - タイトルに Embedded Lights Out Manager と表示されている場合、SP は ELOM ベースです。
 - タイトルに Integrated Lights Out Manager と表示されている場合、SP は ILOM ベースです。
 - iii. Web GUI にログインします。
メイン画面が表示されます。

- iv. バージョン情報を表示するには、「System Information (システム情報)」タブをクリックします。

暫定バージョンの ELOM は、バージョン 4.0.50 と表示されます。

- CLI による方法:

- i. SSH 経由で SP にログインします。

SP のバージョンが表示され、CLI プロンプトが表示されます。

->

- ii. さらに詳細なバージョン情報を表示するには、CLI プロンプトで `version` コマンドを入力します。

-> `version`

暫定バージョンの ELOM は、バージョン 4.0.50 と表示されます。

2. 次の表を使用して、使用するフラッシュファイルパッケージを確認します。

サーバー	暫定バージョンの ELOM ファイル:	ILOM 複合ファームウェアイメージ ファイル:
Sun Fire X4150	X4150-026_450	X4150-2.0.2.6.pkg
Sun Fire X4450	X4450-450_3B17	X4450-2.0.2.6.pkg

方法 1 の回復オプションは次のとおりです。

オプション	参照する節または手順
Web GUI を使用して ELOM BIOS を回復する	「Web GUI を使用して ELOM BIOS ファームウェアを回復するには」 (40 ページ)
CLI を使用して ELOM BIOS を回復する	「CLI を使用して ELOM BIOS ファームウェアを回復するには」 (41 ページ)
Web GUI を使用して ILOM BIOS を回復する	「Web GUI を使用して ILOM BIOS ファームウェアを回復するには」 (42 ページ)
CLI を使用して ILOM BIOS を回復する	「CLI を使用して ILOM BIOS ファームウェアを回復するには」 (44 ページ)

▼ Web GUI を使用して ELOM BIOS ファームウェアを回復するには

1. **Tools and Drivers CD** に収録されている暫定バージョンの ELOM リモートフラッシュファイルを、サーバーがアクセスできるデバイスにコピーします (第 1 章参照)。
暫定バージョンの ELOM リモートフラッシュファイルは、Tools and Drivers CD の次の場所にあります。

サーバー	ファイル名
Sun Fire X4150	\remoteflash\elom_to_ilom\X4150-026_450
Sun Fire X4450	\remoteflash\elom_to_ilom\X4450-450_3B17

2. ブラウザのアドレスバーに、サーバーの SP の IP アドレスを入力します。
次に例を示します。
`http://xxx.xxx.xxx.xxx`
xxx.xxx.xxx.xxx は、SP の IP アドレスです。
ELOM の Web GUI のログイン画面が表示されます。
3. **root** として、または管理者権限を持つアカウントを使用してログインします。
ELOM の Web GUI のメインメニュー画面が表示されます。
4. サーバーの電源が入っている場合、次の手順に従ってサーバーをスタンバイ電源モードにします。
サーバーは、電源を切ってスタンバイ電源モードにする必要があります。
 - a. メインメニューの「**Remote Control (リモートコントロール)**」タブをクリックします。
 - b. 「**Remote Control (リモートコントロール)**」サブメニュータブが表示されます。
 - c. 「**Remote Power Control (リモート電源制御)**」タブをクリックします。
「**Remote Power Control (リモート電源制御)**」サブメニュー画面が表示されます。
 - d. 「**Power Off (電源オフ)**」ラジオボタンをオンにし、「**Submit (送信)**」ボタンをクリックします。
この操作によって、サーバーの電源が切れます。
5. メインメニューの「**Maintenance (保守)**」タブをクリックします。
「**Maintenance (保守)**」サブメニュータブが表示されます。
6. 「**Firmware Upgrade (ファームウェアのアップグレード)**」タブをクリックします。
「**Firmware Upgrade (ファームウェアのアップグレード)**」画面が表示されます。

7. 「Enter Firmware Upgrade Mode (ファームウェアのアップグレードモードに切り替え)」 ボタンをクリックします。
8. ファームウェアアップグレードファイルを指定します。
 - a. 「Browse (参照)」 をクリックします。
 - b. **手順 1** でコピーした暫定バージョンの ELOM ファイルを探します。
 - c. ファイルを選択し、「Open (開く)」 をクリックします。
9. デフォルトの「Clear BIOS CMOS (BIOS CMOS のクリア)」を受け入れます。ファームウェアのアップグレードを開始するには、「Update Firmware (ファームウェアのアップデート)」 ボタンをクリックします。
 ファームウェアのアップグレードプロセスでは、BIOS と SP ファームウェアがアップデートされます。アップグレードが完了すると、ELOM が起動し、Web セッションが開始されます。BIOS のバージョン情報は、ホストの電源を入れたときに更新されます。
10. プロセスが完了したら、サーバーの電源を入れて起動します。
 サーバーの電源を入れると、BIOS のバージョン情報が更新されます。

▼ CLI を使用して ELOM BIOS ファームウェアを回復するには

1. サーバーがスタンバイ電源モードになっていることを確認します。
 Tools and Drivers CD に収録されている暫定バージョンの ELOM リモートフラッシュファイルを TFTP サーバーにコピーします。

サーバー	ファイル名
Sun Fire X4150	\remoteflash\elom_to_ilom\X4150-026_450
Sun Fire X4450	\remoteflash\elom_to_ilom\X4450-450_3B17

2. CLI にアクセスします。
 CLI のアクセスオプションについては、ご使用のサーバーの『Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

注 - この節に記載されている CLI コマンド、構文、および名前空間は、ご使用のサーバーで使用されているコマンド、構文、および名前空間と異なる場合があります。適切なコマンド、構文、および名前空間については、ご使用のサーバーの『Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

3. CLI にログインし、TftpUpdate ディレクトリに移動します。次に例を示します。
-> `cd /SP/TftpUpdate`
4. `set` コマンドを使用して、TFTP サーバーの IP アドレスを設定します。次に例を示します。
-> `set ServerIP=xxx.xxx.xxx.xxx`
xxx.xxx.xxx.xxx は、TFTP サーバーの IP アドレスです。
5. `set` コマンドを使用して、ELOM リモートフラッシュファイルのファイル名を設定します。
たとえば、Sun Fire X4450 の場合、次のように入力します。
-> `set Filename=X4450-418-3B17`
6. TFTP ダウンロードを開始します。次に例を示します。
-> `set Update=action`
7. 「Yes (はい)」 を選択して続行します。
例:

```
-> cd /SP/TftpUpdate
-> set ServerIP=123.456.78.910
-> set FileName=X4450-418-3B17
-> set Update=action
getting image...
getting image successfully.
prepare to update...
Prepare OK!
Update successful
starting update...
```

8. ELOM が再起動します。
サーバーの電源を入れると、BIOS のバージョン情報が更新されます。
9. プロセスが完了したら、サーバーの電源を入れて起動します。

▼ Web GUI を使用して ILOM BIOS ファームウェアを回復するには

1. 管理者権限を持つアカウントを使用して、ILOM Web GUI にログインします。
ILOM のメイン画面が表示されます。ILOM Web GUI へのログイン方法については、『Integrated Lights-Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

2. メインメニューの「Maintenance (保守)」タブをクリックします。
「Maintenance (保守)」サブメニュータブが表示されます。
3. 「Firmware Upgrade (ファームウェアのアップグレード)」タブをクリックします。
「Firmware Upgrade (ファームウェアのアップグレード)」画面が表示されます。
4. 「Enter Upgrade Mode (アップグレードモードに切り替え)」ボタンをクリックします。
アップグレードモードにするかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。
5. 「OK」をクリックしてアップグレードモードにします。
ILOM がアップグレードモードになります。
6. 「Browse (参照)」をクリックし、ILOM 複合ファームウェアイメージファイルを探して選択します。
ILOM 複合ファームウェアイメージファイルは、Tools and Drivers CD の次の場所にあります。

サーバー	ILOM イメージファイル
Sun Fire X4150	\remoteflash\ilom\x4150-2.0.2.6.bin
Sun Fire X4450	\remoteflash\ilom\x4450-2.0.2.6.bin

注 - 必ず .pkg ファイルを使用します。 .bin ファイルは使用しないでください。 .bin ファイルは、暫定バージョンの ILOM から ILOM へのアップグレードにのみ使用します。

7. 「Upload (アップロード)」をクリックします。
ファイルがアップロードされ、SP の正しいイメージアップデートとして確認されます。このプロセスには約 2 分かかります。
8. 「Verify Firmware Image (ファームウェアイメージの確認)」ページが表示されたら、「OK」をクリックします。
9. 「Preserve Configuration (構成の保持)」を選択して ILOM 設定を保持します。選択しない場合、ファームウェアのデフォルトによって設定が上書きされます。
10. 「Start Upgrade (アップグレードの開始)」をクリックします。
進捗状況画面が表示されます。アップデートの進捗状況が 100 % になると、ファームウェアのアップデートが完了し、ILOM が自動的に再起動します。
11. プロセスが完了したら、システムの電源を入れて起動します。
サーバーの電源を入れると、BIOS のバージョン情報が更新されます。

▼ CLI を使用して ILOM BIOS ファームウェアを回復するには

1. サーバーがスタンバイ電源モードになっていることを確認します。
2. Tools and Drivers CD に収録されている ILOM 複合ファームウェアイメージファイルを TFTP サーバーにコピーします。

ILOM 複合ファームウェアイメージファイルは、Tools and Drivers CD の次の場所にあります。

サーバー	ILOM イメージファイル
Sun Fire X4150	\remoteflash\ilom\x4150-2.0.2.6.bin
Sun Fire X4450	\remoteflash\ilom\x4450-2.0.2.6.bin

注 - .bin ファイルは使用しないでください。.bin ファイルは、ILOM から ILOM へのアップグレードにのみ使用します。

3. 管理者権限を持つアカウントを使用して、CLI にログインします。

CLI プロンプトが表示されます。

->

CLI のアクセスオプションおよびログイン手順については、ご使用のサーバーの『Integrated Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。

4. 次のコマンドを入力して、新しい ILOM ファームウェアイメージをダウンロードします。

```
-> load -source tftp:URL/filename.pkg
```

URL は、手順 2 で ILOM 複合ファームウェアイメージをコピーした TFTP サーバーの URL です。filename.pkg は、ILOM 複合ファームウェアイメージファイルの名前です。次に例を示します。

```
-> load -source tftp://123.45.678.910/x4450-2.0.2.6.pkg
```

ファームウェアのアップグレードプロセスが開始され、ファイルの読み込みを確認するプロンプトが表示されます。

```
Are you sure you want to load the specified file (y/n)? (指定したファイルを読み込みますか (y/n)?)
```

5. 「Y」と入力し、Enter キーを押します。

構成を保持するかどうかを確認するプロンプトが表示されます。

Do you want to preserve the configuration (y/n)? (構成を保持しますか (y/n)?)

6. 「Y」と入力し、Enter キーを押します。

ファームウェアのアップグレードが続行されます。アップグレードが完了すると、次のメッセージが表示されます。

Firmware update is complete. (ファームウェアのアップデートが完了しました。)

ILOM will now be restarted with the new firmware. (新しいファームウェアで ILOM を再起動します。)

7. ILOM のアップグレードが完了したら、システムの電源を入れて起動します。

サーバーの電源を入れると、BIOS のバージョン情報が更新されます。

▼ Tools and Drivers CD から BIOS ファームウェアを回復するには (方法 2)

1. 起動メッセージおよび POST メッセージを表示してそれに応答できるようにサーバーを設定します。

2. サーバーの電源を入れます。

3. CD/DVD ドライブに Tools and Drivers CD を挿入します。

4. サーバーを再起動します。

サーバーが Tools and Drivers CD から起動し、Tools and Drivers のメインメニューが表示されます。

5. 終了して DOS に戻るオプション (オプション 3) を選択します。

DOS プロンプトが表示されます。

6. 適切な Recovery ディレクトリに移動します。

```
cd \firmware\[ilom|elom]\recovery
```

たとえば、システムが現在 ILOM の場合、次のコマンドを入力します。

```
cd \firmware\ilom\recovery
```

7. recovery.bat ファイルを実行します。次のコマンドを入力します。

recovery.bat

次のオプションを示すメニューが表示されます。

1. To recover both SP and BIOS firmware (SPとBIOSの両方のファームウェアを回復)
2. To recover SP (SPを回復)
3. To recover BIOS (BIOSを回復)

8. BIOS を回復するオプション (オプション 3) を選択します。

BIOS フラッシュプロセスが開始されます。

9. プロセスが完了したら、サーバーの電源を入れて起動します。

10. 必要に応じて、BIOS セットアップユーティリティーを開き、BIOS 設定をカスタマイズします。

Sun Blade X6250 または X6450 サーバーモジュールの ILOM アップグレード中に発生した エラーからの回復方法

注 - 次の手順を実行する前に、再度アップグレードを試してみてください。

Sun Blade X6250 または X6450 サーバーモジュールでアップグレードに失敗した場合は、この章の手順に従って回復してください。アップグレードプロセスで次のエラーメッセージのいずれかが表示された場合は、正常にアップグレードされていません。

Firmware size incorrect. (ファームウェアのサイズが正しくありません。)

Incorrect image type. (イメージの種類が正しくありません。)

BIOS upgrade failed. (BIOS のアップグレードに失敗しました。)



注意 - この章に記載されている手順は、システムの回復にのみ使用してください。これらの手順では、BIOS 設定や、ILOM または ILOM の構成設定が保持されません。

次の回復オプションがあります。

回復オプション	参照する節または手順
破損した SP	「Sun Blade X6250 および X6450 サーバーモジュール上の破損した SP を回復する」(48 ページ)
破損した BIOS	「破損した BIOS を回復する」(49 ページ)

Sun Blade X6250 および X6450 サーバーモジュール上の破損した SP を回復する

SP が起動しない場合や、SP にアクセスできない場合は、この手順を使用して、Sun Blade X6250 または Sun Blade X6450 サーバーモジュール上の SP ファームウェアを回復します。

開始前のご注意

次のものがが必要です。

- DOS 起動 USB フラッシュドライブ
- マルチポートドングルケーブル
- キーボード、ビデオ、マウス

▼ Sun Blade X6250 および X6450 サーバーモジュール上の破損した SP を回復するには

1. DOS 起動 USB フラッシュドライブを準備し、Tools and Drivers CD に収録されている次のファイルを USB フラッシュドライブにコピーします。
 - \firmware\elom_to_ilom\dos\SOCFLASH.EXE
 - \firmware\elom_to_ilom\dos\DOS4GW.EXE
2. 各サーバーモジュールに固有のバイナリ (.bin) ファイルを、Tools and Drivers CD から USB フラッシュドライブにコピーします。

サーバーモジュール	バイナリファイル
Sun Blade X6250	\firmware\elom_to_ilom\6250i20.bin
Sun Blade X6450	\firmware\elom_to_ilom\6450i20.bin

3. マルチポートドングルケーブルをサーバーモジュールの前面にある UCP コネクタに接続します。
4. キーボード、ビデオ、およびマウス (KVM) をマルチポートドングルケーブルに接続します。
5. DOS 起動 USB フラッシュドライブをマルチポートドングルケーブルの USB ポートに挿入します。
6. サーバーモジュールの電源を入れます。

7. 画面が表示されるまで待ち、プロンプトが表示されたら F8 キーを押します。
8. DOS 起動 USB フラッシュドライブを使用したサーバーの起動を選択します。
サーバーが DOS で起動し、DOS プロンプトが表示されます。
>
9. DOS プロンプトで、次に示す各サーバーモジュール固有のコマンドを入力します。
 - Sun Blade X6250 の場合:
> `socflash -p 1 -v -f 6250i20.bin`
 - Sun Blade X6450 の場合:
> `socflash -p 1 -v -f 6450i20.bin`ILOM へのフラッシュアップグレードが開始されます。アップグレードには約 10 分かかります。アップグレードが完了すると、DOS プロンプトが表示されます。
>
10. DOS プロンプトが表示されたら、シャーシからサーバーモジュールを取り出すことで電源を切ります。
サーバーをシャーシから完全に取り外す必要はありません。
11. 30 秒後に、サーバーモジュールをシャーシに挿入し、サーバーの電源を入れます。
12. Web GUI または CLI にログインし、サーバーモジュールが ILOM ベースになっているかを確認します。
ILOM のバージョン情報を確認する方法については、『Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』を参照してください。

破損した BIOS を回復する

破損した BIOS を回復するには、まず SP が ILOM ベースか ILOM ベースかを確認する必要があります。SP の状態を把握したら、SP をダウングレードし、アップグレード手順を繰り返す必要があります。

▼ SP の状態を確認するには

1. どちらのタイプの SP ファームウェアがインストールされているかを確認します。
 - Web GUI による方法:
 - i. Web ブラウザで、SP のアドレスを入力します。
ログイン画面が表示されます。

- ii. ログイン画面のタイトルに注目します。
 - タイトルに Embedded Lights Out Manager と表示されている場合、SP は ELOM ベースです。
暫定バージョンの ELOM は、赤の文字で表示されます。
 - タイトルに Integrated Lights Out Manager と表示されている場合、SP は ILOM ベースです。
- iii. Web GUI にログインします。
メイン画面が表示されます。
- iv. バージョン情報を表示するには、「System Information (システム情報)」タブをクリックします。
「System Information (システム情報)」サブメニュータブが表示されます。
- v. 「Version (バージョン)」タブをクリックします。
バージョン情報が表示されます。
 - X6250 の暫定 ELOM バージョン: 028
X6450 の暫定 ELOM バージョン: 053
 - ILOM バージョン: 2.0.3.6

■ CLI による方法:

- i. SSH 経由で SP にログインします。
SP のバージョンが表示され、CLI プロンプトが表示されます。
->
- ii. 書式付きのバージョン情報を表示するには、CLI プロンプトで `version` コマンドを入力します。
-> `version`
 - X6250 の暫定 ELOM バージョン: 028
X6450 の暫定 ELOM バージョン: 053
 - ILOM バージョン: 2.0.3.6

2. SP の状態に応じてアップグレード手順を繰り返し、移行プロセスを続行します。

- SP が暫定バージョンの ELOM の場合:
 - a. SP を元のバージョンの ELOM に戻し (アップグレードし)、移行プロセスを再開します。
- SP が ILOM ベースの場合:
 - a. SP を暫定バージョンの ELOM にダウングレードします (第 6 章を参照)。

- b. 暫定バージョンの ILOM にダウングレードした後、次のいずれかの手順に従って ILOM に移行します。

オプション	参照する節または手順
Web GUI を使用してアップグレードする	「Web GUI を使用して ILOM に移行するには」 (26 ページ)
CLI を使用してアップグレードする	「コマンド行インタフェース (CLI) を使用して ILOM に移行するには」 (29 ページ)

ILOM から ELOM へのダウングレード

この章を参考にして、Sun Fire X4150 および Sun Fire X4450 サーバー、Sun Blade X6250 および Sun Blade X6450 サーバーモジュールを ILOM から ELOM にダウングレードしてください。ダウングレードの準備手順は、Sun Fire サーバーと Sun Blade サーバーモジュールで共通していますが、ダウングレード手順は異なります。ご使用のサーバーまたはサーバーモジュールに適したダウングレード手順に従ってください。この章には、次の節があります。

- [「サーバーまたはサーバーモジュールを ILOM から ELOM にダウングレードするための準備」 \(53 ページ\)](#)
- [「ILOM から ELOM にダウングレードする」 \(55 ページ\)](#)

サーバーまたはサーバーモジュールを ILOM から ELOM にダウングレードするための準備

ILOM ベースのシステムを ELOM ベースのシステムにダウングレードしてから、後日すべてのサーバーを ILOM にアップグレードすることが必要になる場合があります。この節では、このプロセスについて説明します。

注 - できるだけ早くサーバーを ILOM に移行することをお勧めします。

手順	作業	節または手順
1.	『リリースノート』または『ご使用にあたって』を確認します。	『ご使用にあたって』と、ILOM および ELOM のドキュメントを確認する
2.	ILOM にアクセスし、構成設定を記録します。	「ILOM の構成設定を記録する」(55 ページ)
3.	ILOM から ELOM にダウングレードします。	「ILOM から ELOM にダウングレードする」(55 ページ)

『ご使用にあたって』と、ILOM および ELOM のドキュメントを確認する

『ご使用にあたって』には、ハードウェア、ソフトウェア、BIOS および SP に関する問題など、サーバーに関する最新の情報が記載されています。ILOM から ELOM へのダウングレードに関する情報は、『ご使用にあたって』で確認してください。次の手順に従って、最新バージョンの『ご使用にあたって』と、ILOM および ELOM のドキュメントにアクセスして表示するか、ダウンロードするかします。

▼ 『ご使用にあたって』と、ILOM および ELOM のドキュメントを確認するには

1. ご使用のサーバーまたはサーバーモジュールの『ご使用にあたって』で、ILOM の入手に関する情報や、ELOM から ILOM への移行に関する情報を確認します。
 - a. ブラウザを開き、次のいずれかにアクセスします。

サーバー	オンラインドキュメントコレクション
Sun Fire X4150	http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4150#hic
Sun Fire X4450	http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4450#hic
Sun Blade X6250	http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.x6250#hic
Sun Blade X6450	http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.x6450#hic

- b. ご使用のサーバーのドキュメントコレクションをクリックして開きます。
2. 『ご使用にあたって』の表示またはダウンロードを選択します。
3. ILOM から ELOM へのダウングレードに固有の情報をドキュメントで確認します。

ILOM の構成設定を記録する

ILOM から ELOM へのダウングレードプロセスでは、ILOM の構成設定が保持されません。ELOM と互換性のある ILOM 設定 (ネットワーク情報やユーザーアカウントなど) を確認して記録する場合は、この節に記載されている手順に従って ILOM の構成設定にアクセスし、記録してください。ELOM にダウングレードする前に ILOM の構成設定を記録する必要がない場合は、「[Sun Fire X4150 および X4450 サーバーを ILOM から ELOM にダウングレードする](#)」(56 ページ) を参照してください。

▼ ILOM の構成設定を記録するには

1. ブラウザのアドレスバーに、サーバーの SP の IP アドレスを入力します。
次に例を示します。
`http://xxx.xxx.xxx.xxx`
xxx.xxx.xxx.xxx は、SP の IP アドレスです。
ILOM の Web GUI のログイン画面が表示されます。
2. root または管理者権限を持つユーザーとしてログインします。
ILOM のメイン画面が表示されます。
3. 必要に応じて、アップグレードプロセスで保持されない構成設定に関する情報を記録します。

ILOM から ELOM にダウングレードする

Sun Fire サーバーのダウングレード手順は、Sun Blade サーバーモジュールのダウングレード手順とは異なります。ご使用のサーバーまたはサーバーモジュールに適した手順に従ってください。

- 「[Sun Fire X4150 および X4450 サーバーを ILOM から ELOM にダウングレードする](#)」(56 ページ)
- 「[Sun Blade X6250 および X6450 サーバーモジュールを ILOM から ELOM にダウングレードする](#)」(60 ページ)

Sun Fire X4150 および X4450 サーバーを ILOM から ELOM にダウングレードする

この節では、ILOM から ELOM へのダウングレード方法を説明します。

開始前のご注意

この節に記載されている手順を確認します。

次のものがが必要です。

- 最新の (暫定バージョンではない) ELOM が収録された Tools and Drivers CD
 - 端末エミュレーションソフトウェアを実行するシリアル端末またはコンピュータ
- 選択した手順によっては、次のものも必要になります。
- DOS 起動 USB フラッシュドライブ

次のダウングレードオプションがあります。

オプション	参照する節または手順
Tools and Drivers CD を使用してダウングレードする (推奨される方法)	「Tools and Drivers CD を使用して ILOM から ELOM にダウングレードするには」 (57 ページ)
DOS 起動 USB フラッシュドライブを使用してダウングレードする	「DOS 起動 USB フラッシュドライブを使用して ILOM から ELOM にダウングレードするには」 (58 ページ)
socflash.exe を使用してダウングレードする	Tools and Drivers CD を使用して ILOM から ELOM にダウングレードするには



注意 - ELOM の Web GUI の「Remote Control (リモートコントロール)」 - 「Redirection (リダイレクト)」のリモートキーボードおよび仮想マウス(RKVM) による CD またはフロッピーディスクのマウント機能は使用しないでください。この章で詳しく説明する手順に従う必要があります。回復手順については、本書の該当する章で、ご使用のサーバーまたはサーバーモジュールに対応する記述を参照してください。

▼ Tools and Drivers CD を使用して ILOM から ELOM にダウングレードするには

1. 起動と POST のメッセージおよびプロンプトに回答できるようにサーバーを設定します。
端末エミュレーションソフトウェアを実行するシリアル端末またはコンピュータを使用します。
2. サーバーの電源を入れます。
3. Tools and Drivers CD を挿入します。
サーバーが CD から起動し、Tools and Drivers のメニューが表示されます。
4. 終了して DOS に戻るオプション (オプション 3) を選択します。
DOS プロンプトが表示されます。
>
5. \firmware\elom\recovery ディレクトリに移動します。
> cd \firmware\elom\recovery

ヒント – DOS の dir コマンドを使用して、ディレクトリの内容を一覧表示します。

6. recovery.bat ファイルを実行します。
> recovery.bat
次のオプションを示すメニューが表示されます。
 1. To recover both SP and BIOS firmware (SPとBIOSの両方のファームウェアを回復)
 2. To recover SP (SP を回復)
 3. To recover BIOS (BIOS を回復)
7. SP と BIOS の両方のファームウェアを回復するオプション (オプション 1) を選択します。
フラッシュプロセスによってダウングレードが開始されます。
8. ELOM へのダウングレードが完了したら、サーバーの電源を再投入して起動します。
SP が ELOM で起動します。

▼ DOS 起動 USB フラッシュドライブを使用して ILOM から ELOM にダウングレードするには



注意 - 回復プロセスで使用するバイナリは、プラットフォームに固有のものです。X4150 用のバイナリを X4450 に使用することはできません。誤ったプラットフォーム用のバイナリを使用すると、予期しない結果を招きます。

1. DOS 起動フラッシュドライブを準備します。
2. POST メッセージと起動プロンプトに応答できるようにサーバーを設定します。
3. サーバーの電源を入れて起動します。
オペレーティングシステムにログインします。
4. DOS 起動フラッシュドライブを挿入してマウントします。
5. Tools and Drivers CD を挿入してマウントします。
6. Tools and Drivers CD の `\recovery\elom` ディレクトリの中身をフラッシュドライブにコピーします。
この手順では、`\recovery\elom\recovery.bat` ファイルとそれに付随するファイルが必要です。
7. サーバーの電源を入れて起動します。
F2 キーを押して BIOS セットアップユーティリティを開くように促すメッセージが表示されます。
8. F2 キーを押して BIOS セットアップユーティリティを開きます。
BIOS セットアップユーティリティのメニューが表示されます。
9. 起動デバイスの優先度を変更し、フラッシュドライブを一次起動デバイスにします。
矢印キーを使用してメニューを移動します。ご使用のサーバーの BIOS 画面については、『サービスマニュアル』を参照してください。
10. 変更を保存して BIOS セットアップユーティリティを終了します。
サーバーがフラッシュドライブから起動し、DOS プロンプトが表示されます。
>

11. DOS プロンプトで、次のコマンドを入力して `recovery.bat` ファイルを実行します。
 > `recovery.bat`
 次のオプションを示すメニューが表示されます。
 1. To recover both SP and BIOS firmware (SPとBIOSの両方のファームウェアを回復)
 2. To recover SP (SP を回復)
 3. To recover BIOS (BIOS を回復)
12. SP と BIOS の両方のファームウェアを回復するオプション (オプション 1) を選択します。
 フラッシュプロセスによってダウングレードが開始されます。
13. ELOM へのダウングレードが完了したら、サーバーの電源を再投入して起動します。
 SP が ELOM で起動します。

▼ DOS 起動 USB フラッシュドライブと SOCFLASH.EXE を使用して ILOM から ELOM にダウングレードするには



注意 – このダウングレード手順では、回復ツールの `socflash.exe` を使用します。回復手順では `.pkg` ファイルを使用しないでください。代わりに、`.bin` 回復イメージを使用します。

1. DOS 起動 USB フラッシュドライブを準備します。
2. Tools and Drivers CD の BMCrecovery ディレクトリから次のファイルをすべてコピーします。
 - SOCFLASH.EXE
 - DOS4GW
 - .bin (SP のバイナリファイル)
3. 起動と POST のメッセージおよびプロンプトに応答できるようにサーバーを設定します。
 端末エミュレーションソフトウェアを実行するシリアル端末またはコンピュータを使用します。
4. フラッシュするシステムから AC 電源コードを外します。
5. USB ポートに起動フラッシュドライブを挿入します。
6. AC 電源を接続し、システムの電源を入れて、起動メッセージと POST メッセージに注目します。

- a. BMC が見つからなかったというメッセージが表示されます。
システムの起動には最大 5 分かかります。
 - b. F8 キーを押して、起動デバイスのリストを取得します。
 - c. フラッシュドライブからの起動を選択します。
7. サーバーがフラッシュドライブから起動し、DOS プロンプトが表示されます。
>
 8. DOS プロンプトで、.bin ファイルを使用して次のコマンドを実行します。
> socflash -p 2 -f sp.bin
sp は、SP の .bin ファイルの名前です。
 9. フラッシュを正常に完了したら、-r オプションを使用して SP をリセットします。
> socflash -r
 10. BIOS セットアップユーティリティーにアクセスして、BMC が見つからなかったと BIOS で報告されていないことを確認します。
socflash.exe ユーティリティーでは、BIOS はアップデートされません。
 11. BIOS をダウングレードするには、『Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』に記載されている、ELOM の Web GUI または CLI を使用する手順に従います。

Sun Blade X6250 および X6450 サーバーモジュールを ILOM から ELOM にダウングレードする

この節では、Sun Blade X6250 および Sun Blade X6450 サーバーモジュールの ILOM から ELOM へのダウングレード方法を説明します。ELOM へのダウングレードを実行するには、マザーボード (MB) 上のジャンパをショートさせる必要があります。さらに、ELOM の socflash.exe ユーティリティーを使用する必要があります。ILOM のユーティリティーは使用しないでください。

この手順では、BIOS または ILOM の構成設定は一切保持されません。

開始前のご注意

次のものがが必要です。

- 端末エミュレーションソフトウェアを実行するシリアル端末またはコンピュータ
- 『Sun Blade X6250 Server Module Service Manual (Sun Blade X6250 サーバーモジュールサービスマニュアル)』または 『Sun Blade X6450 Server Module Service Manual (Sun Blade X6450 サーバーモジュールサービスマニュアル)』

- 書き込み保護がされておらず、ご使用のサーバーの ELOM .bin ファイルおよび BIOS ファイルが保存されており、10M バイト以上の空き容量がある DOS 起動メディア (USB フラッシュドライブ、コンパクトフラッシュ、SATA HD、または SAS HD)
- ジャンパキャップ: Sun Blade X6250 サーバーモジュールの場合は 1 キャップ、Sun Blade X6450 サーバーモジュールの場合は 2 キャップ
- マルチポートドングルケーブル



注意 - ELOM の Web GUI の「Remote Control (リモートコントロール)」-「Redirection (リダイレクト)」のリモートキーボードおよび仮想マウス(RKVM) による CD またはフロッピーディスクのマウント機能は使用しないでください。この章で詳しく説明する手順に従う必要があります。回復手順については、本書の該当する章で、ご使用のサーバーまたはサーバーモジュールに対応する記述を参照してください。

▼ Sun Blade X6250 および X6450 サーバーモジュールを ILOM から ELOM にダウングレードするには



注意 - このサーバーモジュールには、静電気に非常に敏感なコンポーネントが含まれています。コンポーネントを取り扱う前に、静電気放電 (ESD) 用リストストラップでサーバーモジュールの地金に触れてください。ここで説明する手順を安全かつ適切に実行するには、ご使用のサーバーの『サービスマニュアル』を参照してください。

1. DOS 起動 USB フラッシュドライブを準備し、
Tools and Drivers CD の \firmware\ilom_to_elom\ からすべてのファイルを USB フラッシュドライブにコピーします。



注意 - この手順では、Tools and Drivers CD の \firmware\ilom_to_elom\ ディレクトリにある socflash.exe アプリケーションを使用する必要があります。アップグレードディレクトリに含まれているバージョンは、使用しないでください。

2. サーバーモジュールの電源を正常に切ります。
3. シャーシからサーバーモジュールを取り外します (適切な取り外し手順については、ご使用のサーバーの『サービスマニュアル』を参照してください)。
4. サーバーモジュールのカバーを取り外します(ご使用のサーバーの『サービスマニュアル』を参照してください)。
5. 次のいずれかを実行して、マザーボード上のジャンパをショートさせます。
 - Sun Blade X6250 の場合、ジャンパキャップを使用してジャンパ J19 をショートさせます。

- Sun Blade X6450 の場合、ジャンパキャップを使用してジャンパ J19 と ジャンパ J44 をショートさせます。低電圧 DIMM が搭載されていないリビジョン 2 マザーボードでは、J51 のジャンパをピン 1 および 2 からピン 2 および 3 に移動します。

ジャンパの位置については、該当する『サービスマニュアル』でサービスプロセッサの回復手順を参照してください。

6. ピンをショートさせ、サーバーモジュールのカバーを取り付け、サーバーをシャーシに挿入します (適切な挿入手順については、ご使用のサーバーの『サービスマニュアル』を参照してください)。
7. マルチポートドングルケーブルをサーバーの前面にある UCP ポートに接続します。
8. 端末または端末エミュレーションデバイスをマルチポートドングルケーブルに接続します。
9. DOS 起動 USB フラッシュドライブをマルチポートケーブルの USB ポートの 1 つに挿入します。
10. 電源ボタンを押してサーバーモジュールの電源を入れます。

サーバーモジュールをジャンパした場合は、電源ボタンを押す必要があります。ジャンパされたサーバーモジュールは、自動的に電源が入りません。また、ジャンパが取り付けられているサーバーモジュールの電源を入れると、オレンジの障害 LED が点灯します。
11. 画面が表示されるまで待ち、プロンプトが表示されたら F8 キーを押します。
12. DOS 起動 USB フラッシュドライブを使用したサーバーの起動を選択します。

サーバーが DOS で起動し、DOS プロンプトが表示されます。

>
13. DOS プロンプトで、次のコマンドを入力して SP をダウングレードします。
 - Sun Blade X6250 の場合:
> `socflash elom-v054.bin backup.bin`
 - Sun Blade X6450 の場合:
> `socflash elom-v028.bin backup.bin`
14. DOS プロンプトが入力可能な状態に戻ったら、次のコマンドを入力して BIOS をフラッシュします。
 - Sun Blade X6250 の場合:
> `Afudos 1ADPI040.ROM /P /B /K /X /C`
 - Sun Blade X6450 の場合:
> `Afudos S95_3A08.ROM /P /B /K /X /C`
15. DOS プロンプトが入力可能な状態に戻ったら、UCP コネクタからマルチポートケーブルを取り外します。

16. シャーシからサーバーモジュールを取り外します。
17. サーバーモジュールのカバーを取り外します。
ESD 保護を使用します。
18. ジャンパキャップを取り外します。
19. カバーを取り付け、サーバーモジュールをシャーシに挿入します。
このサーバーモジュールには、構成設定が一切含まれていません。サーバーモジュールにアクセスして構成するには、『Embedded Lights Out Manager 管理ガイド』を参照してください。
20. サーバーを使用する前に、Web GUI を使用してイベントログをクリアする必要があります。
 - a. ブラウザを使用して Web GUI にログインします。
 - b. 「System Monitoring (システム監視)」 タブをクリックします。
 - c. 「System Monitoring (システム監視)」 サブメニュー画面が表示されます。
 - d. 「Event Logs (イベントログ)」 タブをクリックします。
 - e. イベントログをクリアするオプションを選択します。
 - f. Web GUI を終了するには、「Logout (ログアウト)」 ボタンをクリックします。

索引

B

BIOS

ELOM

CLI を使用して回復 41

Web GUI を使用して回復 40

ILOM

CLI を使用して回復 44

Web GUI を使用して回復 42

Sun Fire サーバーの破損した BIOS の回復 38

Tools and Drivers CD を使用して Sun Fires

サーバーを回復 45

アクセス 9

記録

カスタマイズされた設定 9

E

ELOM 8, 38

CLI を使用して BIOS を回復 41

Sun Fire X4150 および X4450 サーバーの回復

CLI を使用して ELOM BIOS を回復 41

Web GUI を使用して BIOS を回復 40

Web GUI を使用して BIOS を回復 40

サポート 2

暫定バージョン 2, 3, 5, 6, 7, 8, 14, 15, 17, 20, 22,

23, 25, 26, 29, 31, 39, 40, 41, 43

CLI を使用してアップグレード 21

Web GUI を使用してアップグレード 19

アップグレード 17

アップグレードオプション 18

Embedded Lights Out Manager、「ELOM」を参照

I

ILOM 2, 9, 12, 25, 33, 38, 49

CLI を使用して BIOS を回復 44

Sun Fire X4150 および X4450 サーバーの回復

CLI を使用して BIOS を回復 44

Web GUI を使用して BIOS を回復 42

Web GUI を使用して BIOS を回復 42

移行 2, 25

CLI の使用 29

DOS 起動 USB ドライブの使用 31

Web GUI の使用 26

アップグレードオプション 26

スクリプトの使用 16

移行しない 3, 5

機能 3

構成設定 15

構成設定の記録 55

最終バージョン 2, 25

サポートされていない ELOM 機能 15

ドキュメント 8

ハードウェア変更の必要性 2

複合ファームウェアイメージファイル 14, 27, 29, 39

ILOM から ELOM へのダウングレード 53, 55

Sun Fire X4250 および X4450 サーバー 56

DOS 起動 USB フラッシュドライブの使用 58

soflash.exe の使用 59

Tools and Drivers CD の使用 57

準備 53

ILOM に移行しない場合 3, 5

Integrated Lights Out Manager、「ILOM」を参照

S

SP 5

SP タイプの確認 38

起動時間 28

ゲートウェイアドレスの記録 10

ゲートウェイアドレスの損失 6

破損した SP の回復 36, 37, 48

Sun Blade X6250 および X6450 サーバーの
ダウングレード 60

Sun Fire X4150 および X4450 サーバーの
ダウングレード 56

T

Tools and Drivers CD 8, 12, 13, 14, 16, 25, 30, 32, 36,
37, 38, 40, 41, 43, 45, 48, 56, 57, 58, 59, 61

あ

アクセス

BIOS 9

BIOS セットアップユーティリティ 6

アップグレードスクリプト 2, 5, 7, 16, 18

アップグレードファイル 18

い

移行プロセス

FAQ 2

概要 5

基本的なプロセス 5

作業の表 7

準備 6

移行プロセスに関する FAQ 2

か

回復

CLI を使用して ELOM BIOS を回復 41

CLI を使用して ILOM BIOS を回復 44

Tools and Drivers CD から BIOS を回復 45

Web GUI を使用して ELOM BIOS を回復 40

Web GUI を使用して ILOM BIOS を回復 42

失敗したアップグレード、Sun Blade X6250
および X6450 サーバー 47

破損した SP 48

リモートフラッシュファイルパッケージを
使用して破損した BIOS を回復 49

失敗したアップグレード、Sun Fire X4150 および
X4450 サーバー 35

CLI を使用して破損した BIOS を回復 41

CLI を使用して破損した ILOM BIOS を
回復 44

DOS 起動メディアを使用して破損した SP を
回復 37

Tools and Drivers CD を使用して破損した SP を
回復 36

Web GUI を使用して破損した BIOS を回復 40

Web GUI を使用して破損した ILOM BIOS を
回復 42

破損した BIOS 38

破損した SP 36

リモートフラッシュファイルパッケージを
使用して破損した BIOS を回復 38

カスタマイズされた設定 9

き

記録

ILOM の構成設定 55

カスタマイズされた BIOS 設定 9

ゲートウェイアドレス 10

け

権限の設定

ユーザー権限およびコールバック権限の変更 15

ゲートウェイアドレス

記録 10

こ

構成設定 18, 31, 35, 47, 54, 60, 63

ILOM 55

保持 43, 45

ご使用にあたって 6, 7

確認 8, 54

さ

サービスプロセッサ、「SP」を参照

暫定バージョンの ELOM、「ELOM」の
「暫定バージョン」を参照

と

ドキュメント

ELOM および ILOM 8

ELOM および ILOM のドキュメントの
ダウンロード 9

オンラインコレクションの URL 8

確認 8, 54

関連 viii

ふ

ファームウェアアップグレードファイル 6, 7, 9, 18

ダウンロードとコピー 12

ファームウェアアップグレードファイルの

ダウンロードとコピー 12

ゆ

ユーザー権限の設定 15

